

取扱説明書

このたびは、**MT44** をご購入いただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、**MT44** を安全に正しくご使用いただくために、取り扱いに関する手順、要領および注意事項などについて説明しています。本機の性能を十分発揮させるために、ご使用になる前には本書を良くお読みになり、正しくお取り扱いいただくようお願い申し上げます。

なお、本書はお読みになった後も、いつでも読めるように大切に保管してください。

SANWA

プロポの安全な取扱いと注意事項

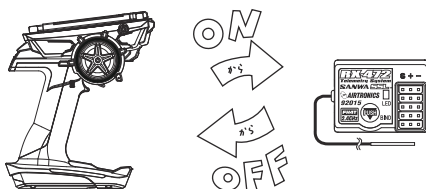
お買い上げいただいたプロポを正しく安全にご使用いただくために、本書をよくお読みいただき、注意事項を必ず守ってください。
使用方法を誤ったり、安全に対する注意をおこたったりすると、他人に迷惑をかけたり、自分自身をきずつけたりすることになります。
■安全確保のため、この各項目を必ずお守りください。



警告

搭載時及び操作上の注意

- プロポの電源スイッチをONにするときは必ず①送信機→②受信機の順でおこなってください。またOFFにするときは①受信機→②送信機の順番でおこなってください。
- ☆スイッチ操作を誤って逆にすると突然エンジンやモーターが高回転になり、大変危険です。

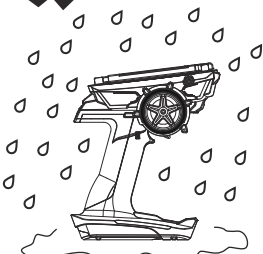


- 車体には必ずノイズ対策をおこなってください。
- ☆金属同士がこすれると電氣的ノイズ(雑音)が発生し正常な動作をしない原因となりますのでビス、ナットのゆるみのないことを確認してください。
- ☆ガソリンエンジン、モーターなどからもノイズが発生することがあります。抵抗入りプラグや、ノイズキラーコンデンサー等のノイズ対策をおこなってください。
- 走行前に必ずプロポの動作確認(通達テスト)をおこなってください。異常な動きをしたり、動かない場合は走行(航)させないでください。机上でのテストが正常であっても走行(航)中の電波の到達距離は、受信機の搭載方法、アンテナの張り方、送信機のアンテナの向き、地形等によって変わりますので、初走行(航)の際は特にご注意ください。

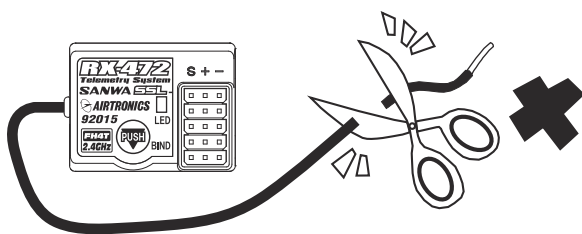
- 雨の日は絶対に走行(航)させないでください。

- ☆送信機内部は精密な電子部品でできていますので、ケースを伝わって水が入ると誤動作や不動となり危険です。

- ☆受信機、サーボ等が水没した時は、すぐに回収して内部を乾燥させてください。乾燥後、正常に動作しても念のためにサンワ サービスへ点検にお出しく下さい。



- 受信機は精密機器です。強い衝撃や振動をあたえないでください。
- ☆厚手のスポンジ等を使用し、防振対策をおこなってください。
- 受信機はスピードコントローラー、モーター、バッテリーからできるだけ離して搭載してください。
- 金属シャシーやカーボンシャシーに搭載する場合は両面テープを3枚位かさねて使用し、受信機をシャシーから離してください。
- 電波障害がある場合は、受信機の搭載場所をかえるか、タテ積⇄ヨコ積に搭載方法をかえてください。
- 受信機のそばにモーターコードやバッテリーコードがあると誤動作しやすくなるので、近づけないでください。
- 受信機のアンテナ線はできるだけ外へ出し、まっすぐ立てて張るようにしてください。余分な長さを切断したり、折り返したりしないでください。
- ☆アンテナ線が短くなると走行(航)できる範囲が狭くなるので危険です。
- ☆アンテナ線は絶対に切断しないでください。



- アンテナ線はモーターコードやバッテリーコードに近づけないようにしてください。
- 金属シャシーやカーボンシャシーに導電性のピアノ線アンテナを使用するとノイズにより誤動作する可能性があります。シャシーにアンテナ線を近づけないようにしてください。

⚠ 警告 走行(航)の際の注意

RCカー等を走行する場合は、必ず下記事項を守り、他の人の迷惑にならないようにご注意ください。

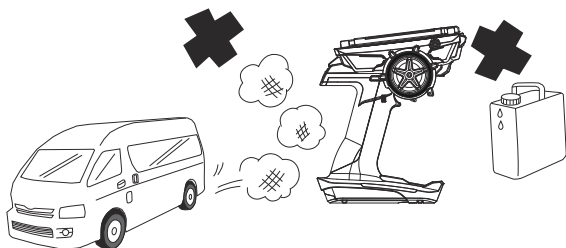
- 車体(船体)は完全に整備をして安全を確認してください。
- 人ごみや道路では絶対にRCカーを走行させないでください。
- 走行後は必ず動力バッテリーのコネクターをはずし、車体から動力バッテリーをはずしてください。
- 同時走行(航)の場合は必ず管制員を決めて、その指示に従って走行してください。
- 他の人の走行を妨げないようにご注意ください。
- ラジコン保険に必ず加入してください。ラジコン保険の加入申込はラジコン操縦士登録代行店にお問合わせください。
- エンジンカーには必ず消音効果のある「マフラー」(消音機)を付けてください。
- 早朝からのエンジン始動はやめてください。
- 走行場所は必ずきれいに掃除をしてから帰ってください。

⚠ 注意 用途について

- 模型用以外には使用しないでください。
- 本製品は模型用として日本国内の電波法に基づいて製造されていますので海外ではご使用になれません。

⚠ 注意 日常のお手入れ

- エンジンの排気や燃料がついた時は、やわらかい乾いた布で拭いてください。汚れがひどい時には水または中性洗剤を染み込ませたきれいな柔らかい布を固くしぼって拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコール、モータークリーナー、ブレーキクリーナーなどは表面の仕上げをいためたり、変質する場合がありますので、ご使用にならないでください。

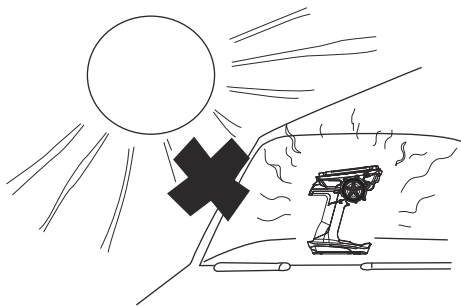


⚠ 注意 送信機の手扱いについて

- ぶつけたり、落としたり強い衝撃を与えたりしないでください。またタイヤトラクション剤等のついた手で送信機、受信機、サーボ、F E Tスピードコントローラー等にさわると、故障やケース変形の原因となります。

⚠ 注意 置き場所について

- 次のような場所で保管しないでください。
 - ☆極端に暑いところ、極端に寒いところ。
 - ☆直射日光が長時間あたるところ。
特に窓を閉めきった自動車内で直射日光が当たる場所に放置すると季節により車内温度が80℃以上になり、変形や故障の原因となる場合がありますので充分ご注意ください。
 - ☆湿気の多いところ、風通しの悪いところ。
 - ☆振動の多いところ。
 - ☆ほこりの多いところ、蒸気や熱気が当たるところ。
 - ☆エンジンの排気がかかるところ、燃料缶のそば。



マークの意味



警告

事故や怪我をしないために必ず守っていただきたいこと。



注意

故障を起こさないために必ず守っていただきたいこと。

プロポの安全な取扱いと注意事項



注意

安全に使用していただくための注意事項

- 2.4GHz帯はラジオコントロール専用の周波数ではありません。この周波数帯はISM（産業、科学、医療）バンドと共用されているので都市部では電子レンジ、無線LAN、デジタルコードレス電話、オーディオ機器、ゲーム機や携帯電話のBluetooth、VICSなどの近距離通信の影響を受ける可能性があります。またアマチュア無線、移動体識別用構内無線局にも使用されているため、これらの影響に注意して使用してください。
なお、既存の無線局に有害な電波干渉を与えた場合は速やかに電波の発射を停止し干渉回避対策をおこなってください。
- RCサーキット等では2.4GHzシステムに影響を与える可能性のある機器の使用を最小限にし、必ず事前に安全性の確認をおこなってください。また、施設管理者の指示に従ってください。
- 建物や鉄塔などの後ろを走行(航)させたときのように電波の到達方向を遮へいすると、操縦レスポンスの低下や操縦不能になる可能性があります。常に目視で確認出来る範囲で走行(航)してください。
- 日本国内では技術適合証明試験を受け、認証番号を記載した技術適合証明ラベルが貼られている送信機やモジュールが使用できます。技術適合証明ラベルを剥がしたり汚したりしないでください。
- 海外からの輸入品等の場合で技術適合証明ラベルが貼られていないプロポやモジュールを日本国内で使用することはできません。電波法違反になる場合があります。
- (財)日本ラジコン電波安全協会ではラジオコントロールに使用する電波を安全に使用していくための啓発をおこなっています。同協会の名称の入った技術適合証明ラベルが貼られている送信機やモジュールの使用を推奨します。
- 走行中は送信機のアンテナ内蔵部を握ったりしないでください。電波の出力が弱くなり走行できる範囲が狭くなるので危険です。
- 送信機のアンテナ内蔵部には金属製のクリップなどを取り付けしないでください。
- 送信機のアンテナ内蔵部を受信機以外のサーボ、スピードコントローラーに極端に接近させると誤動作する場合がありますが、強い高周波出力の影響ではありません。
- 受信機は精密機器です。強い衝撃や振動をあてないでください。厚手のスポンジ等を使用し防振対策をおこなってください。
- 受信機のアンテナ線はできるだけ外へ出し、まっすぐ立てて張るようにしてください。余分な長さを切断したり、折り返ししたりしないでください。
- 受信機のアンテナ線はモーターコードやバッテリーコードなどのノイズ源に近づけないでください。
- 金属シャシーやカーボンシャシーに受信機を搭載する場合は両面テープなどを重ねて使用し、できるだけシャシーから離してください。



INDEX

■ セットの構成と規格	5
● セットの構成(5)	
● セットの規格(5)	
■ ご使用になる前に	6~8
● ステアリング、スロットルのテンション調整、グリップパッドの調整(6)	
● フル アジャスタブル トリガーの調整(7)	
● 電源について、マイクロSDカードについて(8)	
■ 受信機の接続と搭載について	9, 10
● 受信機について、アンテナの取り扱いについて、アンテナ内蔵受信機について(9)	
● 接続について(10)	
■ 送信機各部の名称	11, 12
■ 各機能の使用方法	13~60
● キー操作について(13)	
● 電源切り忘れアラームについて(13)	
● ディスプレイ パネルについて(14)	
● メニュー構成について (15)	
● ショートカットメニューについて(16~18)	
・ダイレクト モデル セレクト(16)	
・クイック セットアップ(17, 18)	
● セッティング[SETTING](19~32)	
・デュアル レート[D/R](19)	
・スピード[SPEED](20)	
・カーブ[CURVE](21~24)	
・フェール セーフ[F/S](25)	
・ベース[BASE](25~28)	
・リバーズ[REV](26)	
・サブトリム[SUB-T](26)	
・エンド ポイント アジャスト[EPA](27, 28)	
・トリム[TRIM](29, 30)	
・アンチ ロック ブレーキ[ALB](31)	
・オフセット[OFFSET](32)	
・スロットル タイプ[TH TYPE](32)	
● エー ユー エックス[AUX](33~36)	
・ステップ エー ユー エックス[STEP AUX](33)	
・ポイント エー ユー エックス[POINT AUX](33)	
・4ホイール ステアリング[4WS](34)	
・モーター オン アクスル[MOA](34)	
・エーユー エックス ミキシング[AUX-MIX](35)	
・コード エー ユー エックス[CODE AUX](36)	
● タイマー[TIMER](37~39)	
・セットアップ[SETUP](37, 38)	
・ラップ タイマー[LAP TIMER](38)	
・インターバル タイマー[INT TIMER](39)	
・ダウン タイマー[DOWN TIMER](39)	
● テレメトリー[TELEMETRY](40~44)	
・ログ データ[LOG DATA](40)	
・テレメトリー セッティング[TELEMETRY SETTING](43)	
・グラフ セッティング[GRAPH SETTING](44)	
・テレメトリー スイッチ[TELEMETRY SWITCH](44)	
● モデル[MODEL](45~48)	
・モデル セレクト[MODEL SELECT](45)	
・モデル ネーム[MODEL NAME](46)	
・モデル コピー[MODEL COPY](47)	
・モデル クリア[MODEL CLEAR](48)	
● システム[SYSTEM](49~60)	
・バインド[BIND](49, 50)	
・キー アサイン スイッチ[KEY ASSIGN SW](51)	
・キー アサイン トリム[KEY ASSIGN TRIM](52)	
・カスタム リスト[CUSTOM-LIST](53)	
・エー ユー エックス タイプ[AUX TYPE](54)	
・レーシング モード[RACING MODE](55)	
・バッテリー[BATTERY](56)	
・ブザー[BUZZER](56)	
・エル シー ディー[LCD](57)	
・エル イー ディー[LED](57)	
・クロック[CLOCK](58)	
・セットアップ[SETUP](58)	
・キャリブレーション[CALIBRATION](59)	
・ファームウェア[FIRMWARE](60)	
■ キーアサイン機能一覧	61
■ センサーの取り付けについて	62
■ 索引	63
■ こんなときは	64
■ サンワサービスについて	65
■ 修理依頼カード	
■ 保証書	

セットの構成と規格

セットの構成

	RX-482 PC プライマリコンポーネント	RX-481 PC プライマリコンポーネント	RX-472 PC プライマリコンポーネント	RX-471 PC プライマリコンポーネント
送信機	TX-471	←←←←←	←←←←←	←←←←←
受信機	RX-482	RX-481	RX-472	RX-471
サーボ	—	—	—	—
付属品	ストラップ フック×1 トリガーアングルスペーサー×2 プレーキトリガー +1/+2×各1 グリップパッドS×1 受信機用ダストカバー×1 スイッチハーネス×1 取扱説明書×1			

●ご使用になる前にセットの内容をお確かめください。

セットの規格

＜A＞送信機

品 番	TX-471
出 力 表 示	アナログ/デジタル表示(電源電圧表示)
変 調 方 式	2.4GHzスペクトラム拡散方式
電 源	単4乾電池×3本(対応電圧DC2.7~5.0V)
重 量	371 g

※入力電圧にご注意ください。許容電圧以上の電圧が入力されると送信機が壊れます。

＜B＞受信機

品 番	RX-482
変 調 方 式	2.4GHzスペクトラム拡散方式
寸 法	18.2×24.4×27.1mm
電 源	DC3.7~7.4V
重 量	7.1 g

品 番	RX-481
変 調 方 式	2.4GHzスペクトラム拡散方式
寸 法	18.2×24.4×27.1mm
電 源	DC3.7~7.4V
重 量	7.1 g

品 番	RX-472
変 調 方 式	2.4GHzスペクトラム拡散方式
寸 法	30.0×23.3×14.0mm
電 源	DC3.7~7.4V
重 量	6.6 g

品 番	RX-471
変 調 方 式	2.4GHzスペクトラム拡散方式
寸 法	30.0×23.3×14.0mm
電 源	DC3.7~7.4V
重 量	6.6 g

ご使用になる前に

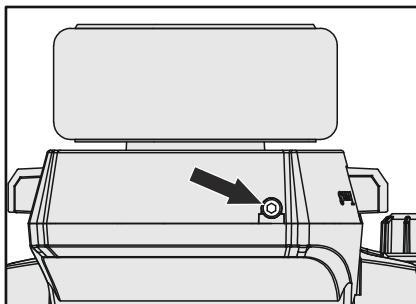
ステアリング、スロットルのテンション調整

MT-44はステアリング/スロットルの操作感をユーザーの好みにあわせられるようにステアリング/スロットルトリガーのテンションを簡単に調整できます。

ステアリングのテンション調整

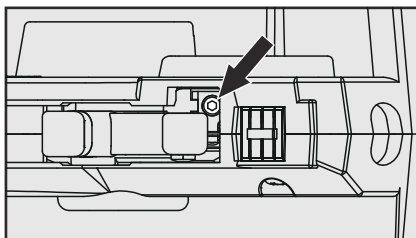
右図の矢印の箇所に六角レンチドライバー(1.5mm)を挿して廻すことにより、ステアリングのスプリングテンションを調整できます。

※スプリングテンションは工場出荷時が一番柔らかい状態です。六角レンチドライバー(1.5mm)で締め込んでいくと、スプリングテンションは硬くなります。



スロットルトリガーのテンション調整

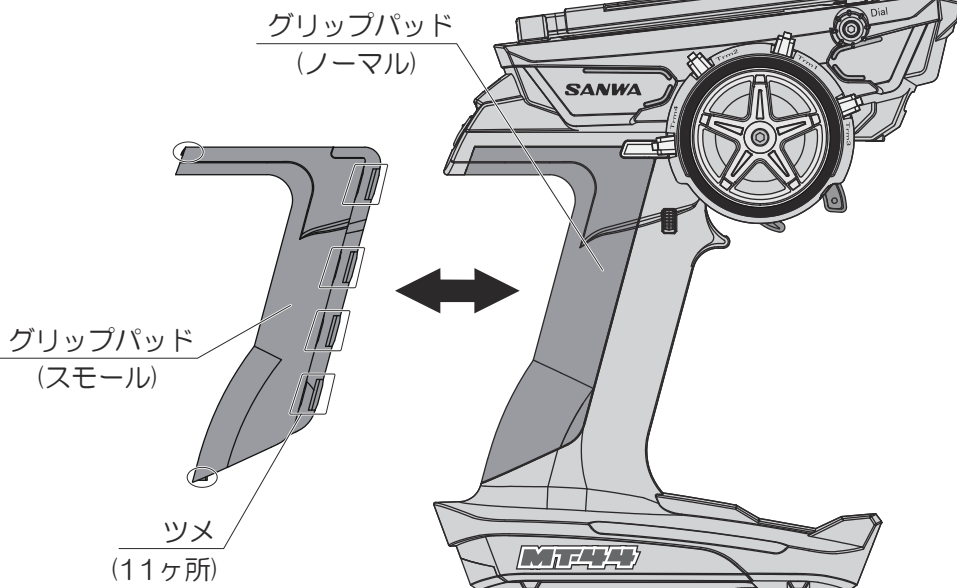
右図の矢印の箇所に六角レンチドライバー(1.5mm)を挿して廻すことにより、スロットルトリガーのスプリングテンションを調整できます。



グリップパッドの調整

ご使用になるユーザーの手の大きさにあわせてグリップパッドをノーマル/スモールの2種類から選べます。(出荷時はノーマルが装着されています。)

送信機グリップ部にグリップパッドのツメ(11ヶ所)でロックされていますので無理に引っ張らないでください。



ご使用になる前に

フル アジャスタブル トリガーの調整

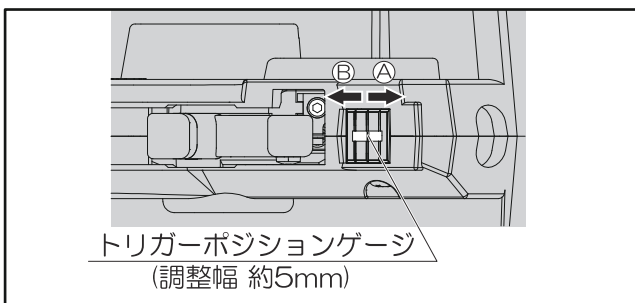
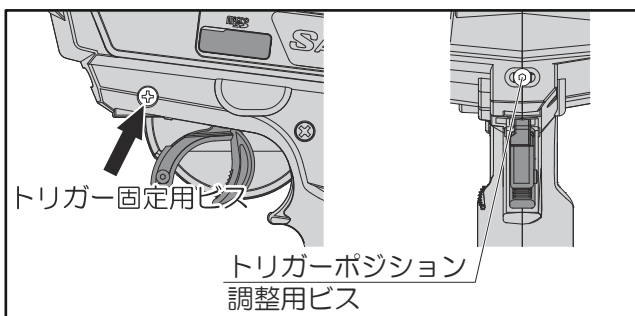
トリガー ポジションの調整

送信機裏側にあるトリガー固定用ビスをゆるめます。
次に送信機側面にあるトリガーポジション調整用ビスを調整してトリガーを好みの位置に決定します。
トリガーポジション調整用ビスは○の回りでトリガーポジションゲージはⒶの方向に動きます。
調整用ビス○の回りでⒷの方向へ動きます。

※トリガーの移動範囲は約5mmですので、範囲を超えて無理に調整用ビスを廻すと故障の原因となりますのでご注意ください。

トリガーの位置が決定しましたら、トリガー固定用ビスを締めてトリガーの調整は終了です。

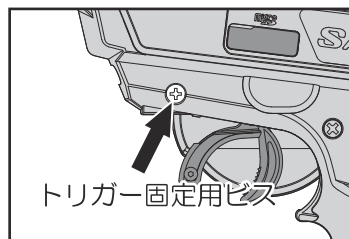
※工場出荷状態でトリガーの位置はⒶ側が一番奥の位置になっていますのでビスを廻す方向にはご注意ください。



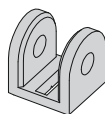
トリガー アングルの調整

アングル スパースーA/B/Cを入れ替えることによってスロットルトリガーの角度を5段階に調整することが可能です。

- 1) 送信機裏側にあるトリガー固定用ビスをはずします。
- 2) 操作しやすい角度になるようにアングル スパースーの向きを変えて、アングルを調整してください。
- 3) トリガーの角度が決まったら送信機裏面のトリガー固定用ビスを固定します。

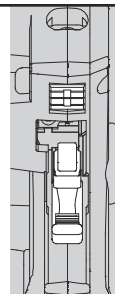


アングル スパースー

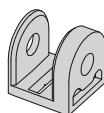


(A)

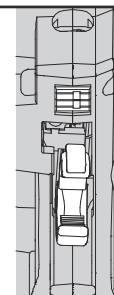
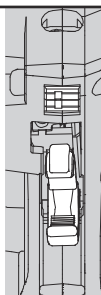
工場出荷時装着



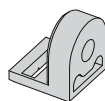
アングル スパースー



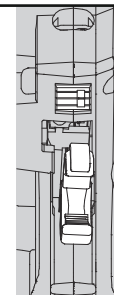
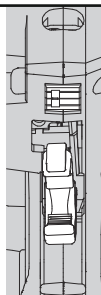
(B)



アングル スパースー



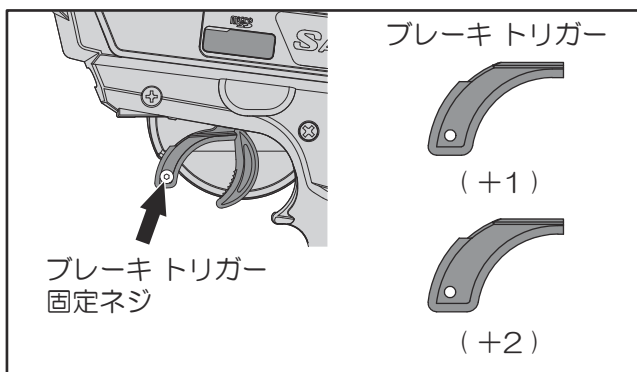
(C)



ブレーキトリガーの調整

同梱のブレーキトリガーを交換することで、手の大きさや好みに合わせて指の掛かり具合を調整できます。ブレーキトリガーは出荷時に装着されている標準サイズの他に+1と+2の2種類が同梱されています。

- 1) トリガー裏側にあるブレーキトリガー固定ネジをはずします。
- 2) 手の大きさや好みに合わせてブレーキトリガーを選定してください。
- 3) 使用するブレーキトリガーが決まったらブレーキトリガー固定用ネジで固定します。



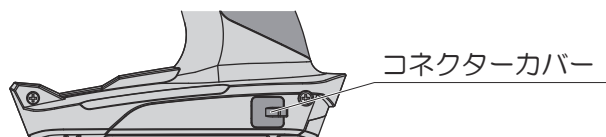
電源について

送信機の電池の入れ方

- ① OPEN部を軽く押しながら矢印の方向へスライドさせると電池カバーが開きます。
- ② 極性を間違えないで単四乾電池を3本入れてください。
- ③ 電池カバーの凸部分を本体の溝に合わせ、矢印の方向に電池カバーをスライドさせて完全にしめます。

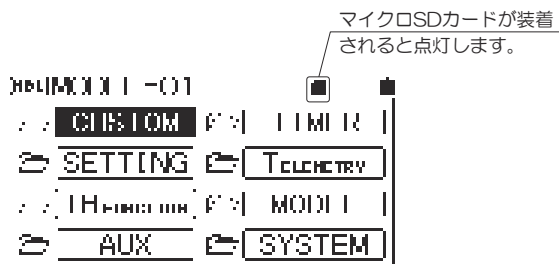
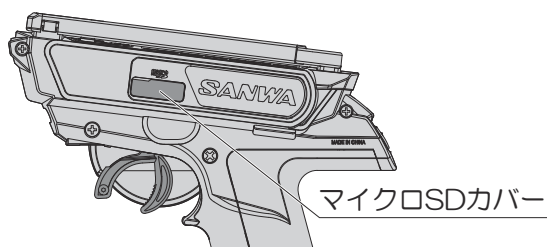
オプションのバッテリーについて

- オプションのバッテリーを使用される場合には、コネクターカバーからバッテリー側の充電ポートにアクセスが可能です。



マイクロSDカードについて

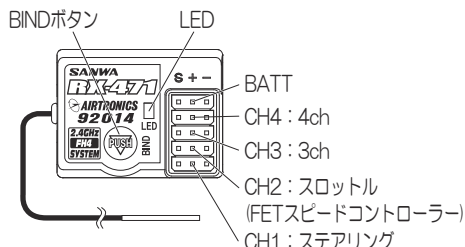
- MT-44はマイクロSDカードに対応しております。マイクロSDカードを使用することで、モデルデータの保存やテレメトリーデータの保存が可能です。またMT-44のファームウェアアップデートが公開された場合に、マイクロSDカードを使用してファームウェアアップデートが可能です。マイクロSDカード挿入時は金属端子面を下側にして挿入してください。
- マイクロSDカードをMT-44に挿入すると“MT-44”という名称のフォルダが作成され、そのフォルダの中に“MODEL”という名称のフォルダが作成され、その中にモデルデータが保存されます。ログデータのエクスポートをおこなうと“Log”のフォルダが作成され、そのフォルダの中に“csv”データが保存されます。



受信機の接続と搭載について

受信機について

●RX-471 (例)

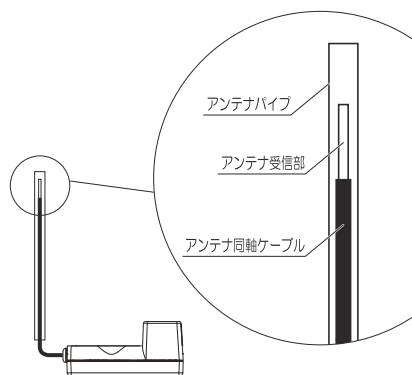


受信機LEDの状態

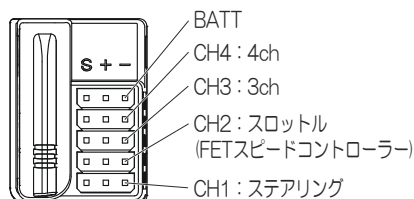
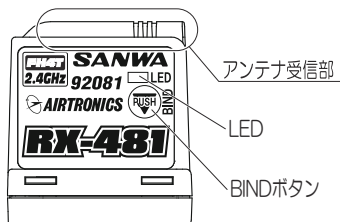
電波を受信している状態	青点灯
電波を受信できない状態	—
BIND(バインド)設定中	青点滅、青高速点滅
バッテリーフェールセーフ作動	青&赤点灯
バッテリーフェールセーフ作動後に電波を受信できない状態	赤点灯

アンテナの取り扱いについて

- 受信機とアンテナが搭載される場所により、受信距離が異なります。
- 右図のようにアンテナ受信部(先端から3cm)を保護するために、必ずアンテナパイプにアンテナを入れて、アンテナ受信部の先端がアンテナパイプの外に出ないようにしてください。
- 内部で断線の恐れがありますので、アンテナ受信部/アンテナ同軸ケーブルを絶対に折り曲げないでください。
- 同軸ケーブルを無理に引っ張らないでください。受信機内部の破損の原因となります。
- RCカーに搭載したときにアンテナ受信部になるべく高い位置になるように配置してください。
- 受信感度が低下する恐れがありますので、アンテナ受信部、アンテナ同軸ケーブルは切断したり束ねたりしないでください。
- 受信機のアンテナはモーター、FETスピードコントローラー(配線も含む)から離して、垂直に立ててください。



アンテナ内蔵受信機について

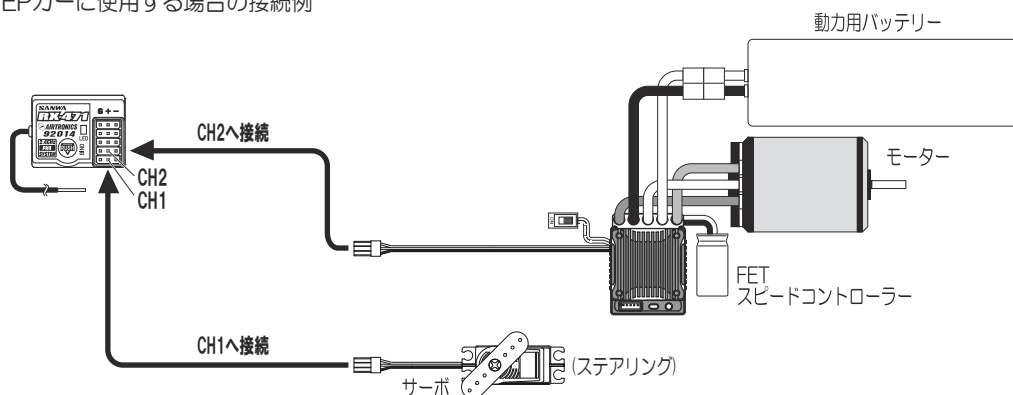


- 受信機のアンテナ受信部部の位置により、受信距離が異なります。
- 上図のアンテナ受信部が高い位置になるように設置してください。

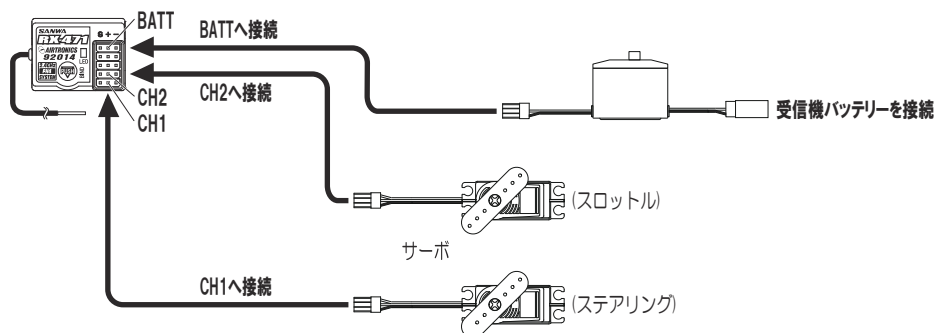
接続について

●下図を参考に受信機、サーボ等を接続してください。

・EPカーに使用する場合の接続例



・GP（エンジン）カーに使用する場合の接続例

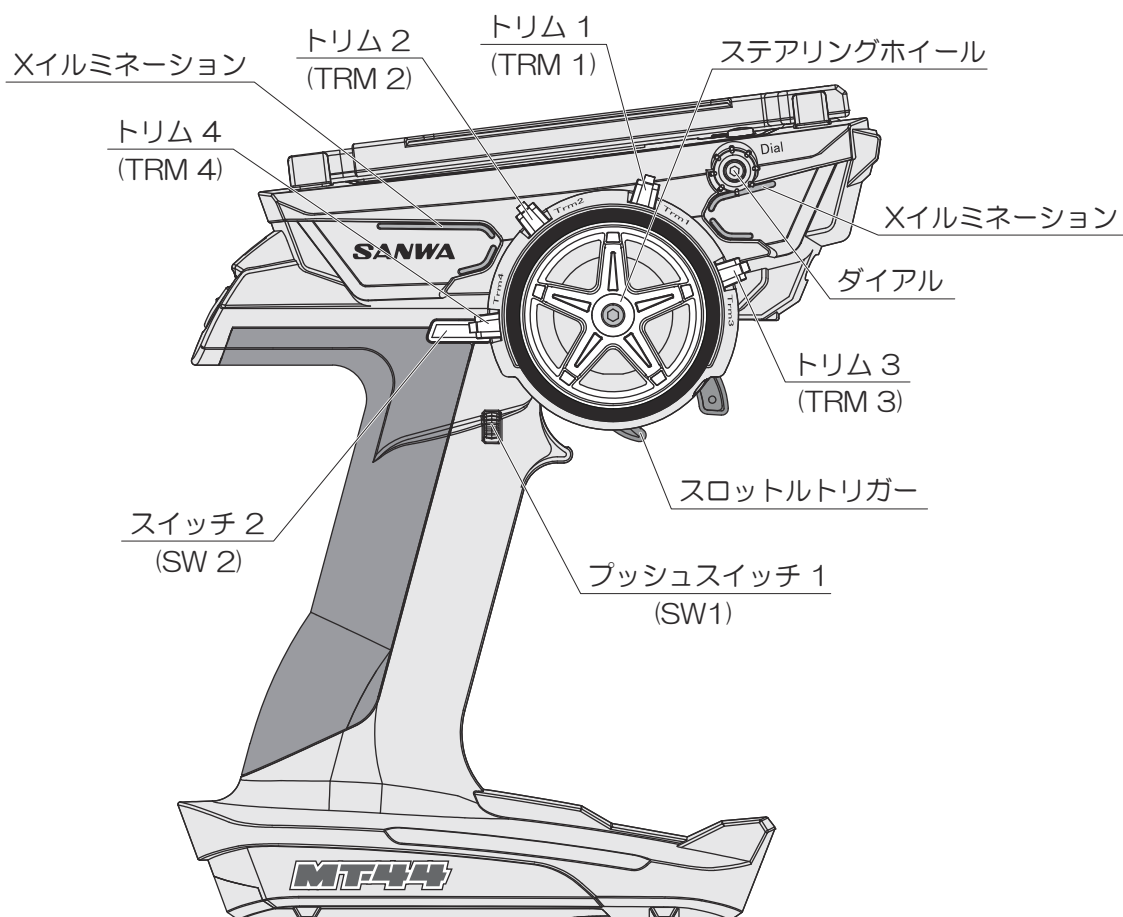
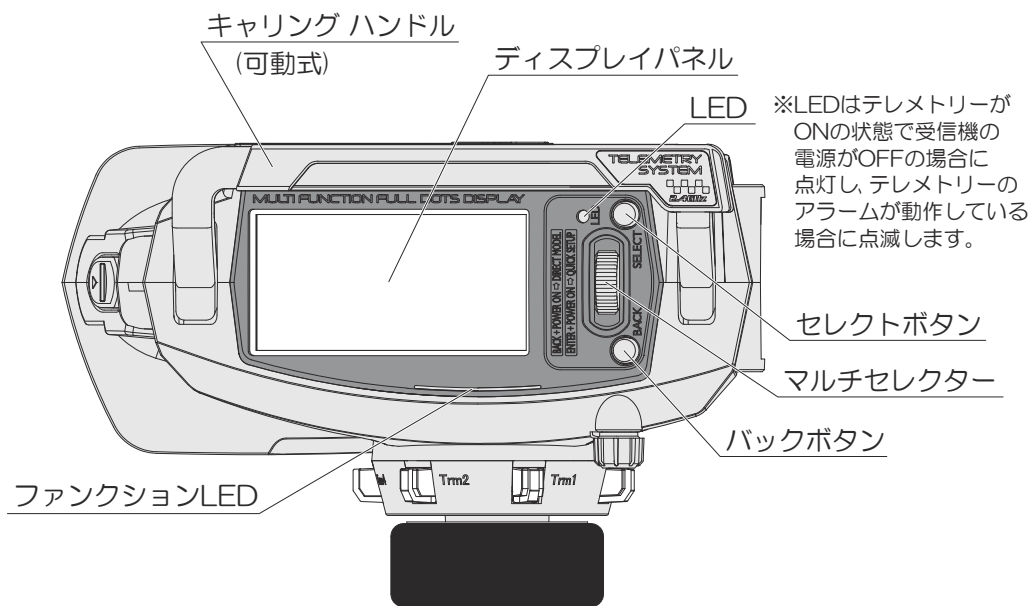


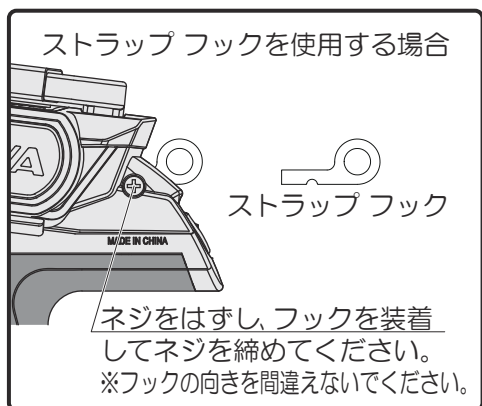
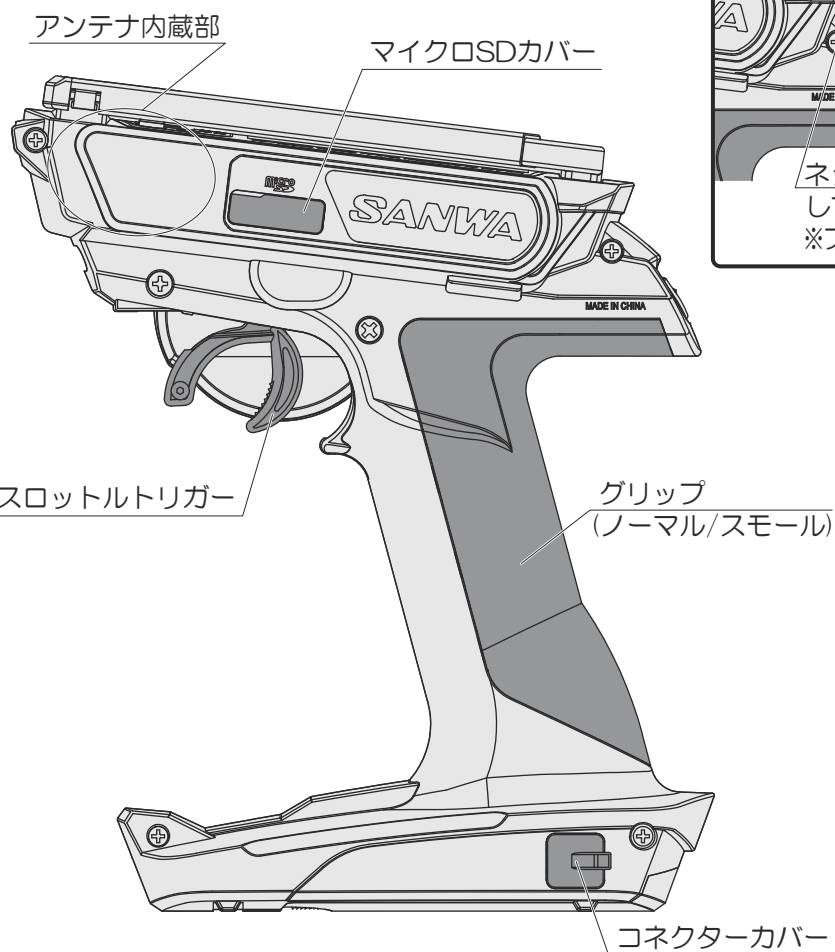
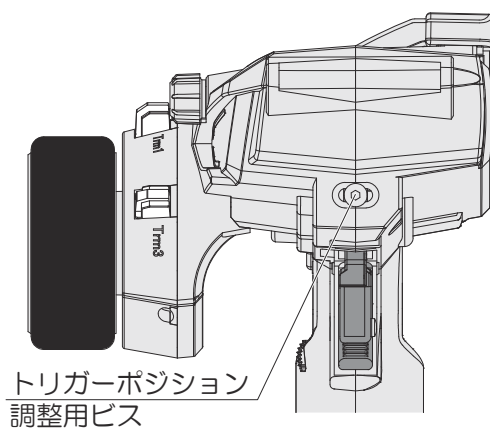
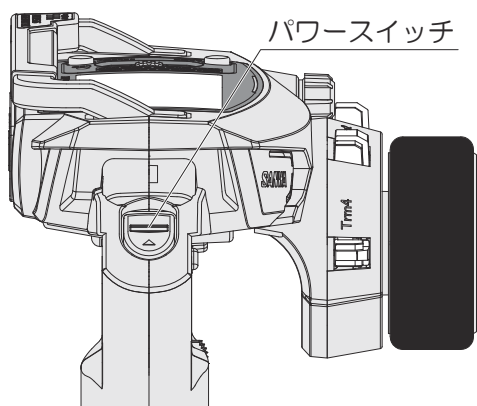
！ 注意

- 走行中の振動でコネクタが抜けると暴走の危険があります。受信機、サーボ、スイッチ等のコネクタは確実に接続してください。
- 受信機は振動、衝撃、水に弱いので防振/防水対策を確実にこなってください。対策をおこると暴走の危険があります。
- 受信機の取り付けはカーボンシャシー、金属シャシーから離して取り付けてください。
- RCカーに搭載している金属パーツ同士が接触するとノイズが発生し受信性能に悪影響をおよぼし、暴走の危険があります。
- 電動RCカー用のブラシモーターには必ずノイズキラーコンデンサーを取り付けてください。
ノイズキラーコンデンサーを取り付けていないと、ノイズが発生し暴走の危険があります。
- 送信機、受信機、サーボ、FETスピードコントローラー、送信機バッテリー等のプロポパーツはSANWA純正品をご使用ください。

※SANWA純正品以外の組み合わせや当社以外で改造、調整、部品交換などがおこなわれた場合により発生した損害などにつきましては、当社では責任を負いません。

送信機各部の名称

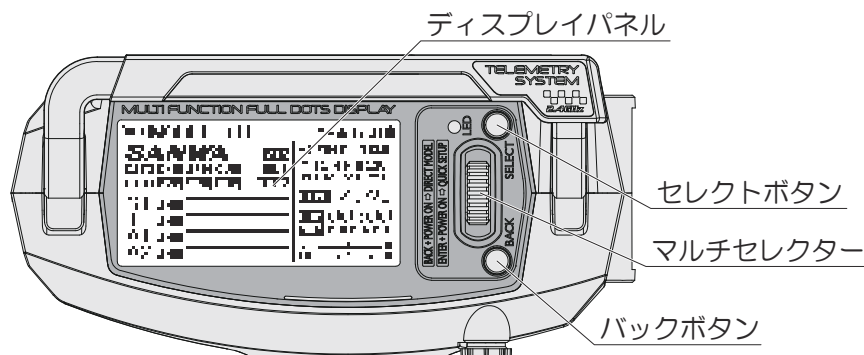


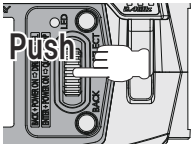
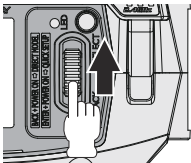
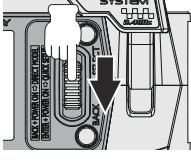
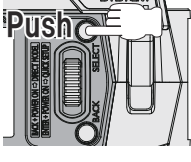
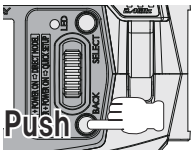


各機能の使用方法

キー操作について

- マルチセクターとセレクトボタン/バックボタンで設定、呼び出しを簡単におこなえます。



キー操作	名 称	動 作
	エンター	<ul style="list-style-type: none"> ●トップ画面から設定画面に移動します。 ●設定する機能、項目を選択します。 ●長押しで設定値が初期値に戻ります。
	マルチセクター アップ	<ul style="list-style-type: none"> ●カーソルが上方向へ移動します。 ●設定値が増加します。
	マルチセクター ダウン	<ul style="list-style-type: none"> ●カーソルを下方へ移動します。 ●設定値が減少します。
	セレクト	<ul style="list-style-type: none"> ●チャンネルや機能を選択します。
	バック/キャンセル	<ul style="list-style-type: none"> ●一つ前の状態に戻ります。 ●設定をキャンセルします。

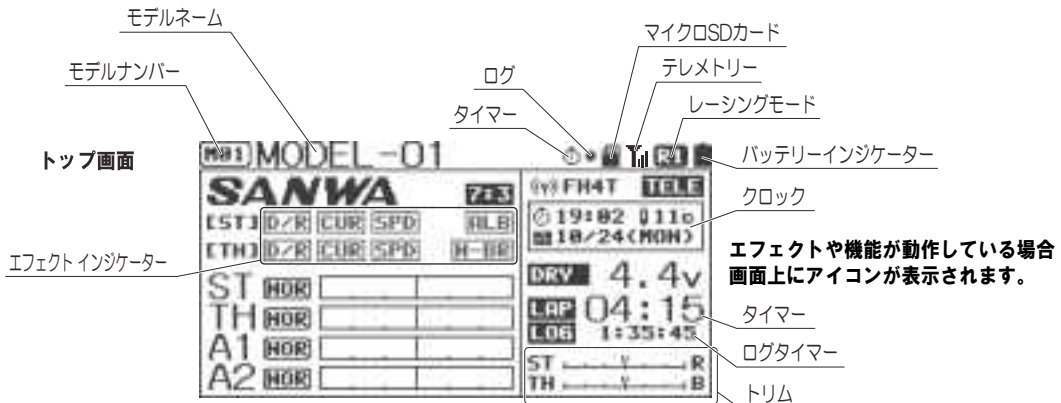
電源切り忘れアラームについて

- MT-44はステアリングホイール、スロットルトリガーや各種スイッチを操作しない時間が10分経過すると警告のアラームとLED点滅ともに「No Operation」と表示されます。ステアリングホイール、スロットルトリガーや各種スイッチを操作すると警告が解除されます。使用しないのであればパワースイッチをOFFしてください。

ディスプレイパネルについて

- MT-44の各機能はマルチセクターでダイレクトに機能を選択できるようになっています。
- それぞれのチャンネルの機能を別々に設定することができます。
- パワースwitchをONにするとブート画面表示後(ブートの設定がDEMOの場合)にトップ画面が立ち上がります。

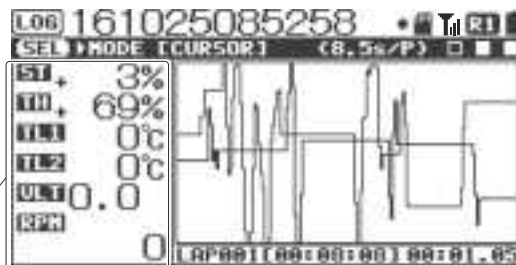
各種設定を変更する場合はマルチセクターを操作してメニューを選択してください。



マルチセクターでアップ/ダウンの操作をおこなうとトップ画面やテレメトリー画面の切り替えになります。

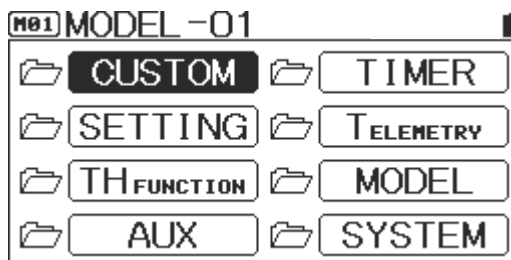
テレメトリー画面

各種テレメトリーデータ



RX-461/RX-462に各センサーを接続、RX-482/RX-472とSUPER VORTEXシリーズの組合せやSV-PLUSシリーズを使用して、テレメトリー機能をONにすると送信機にデータが送られテレメトリー画面に表示されます。

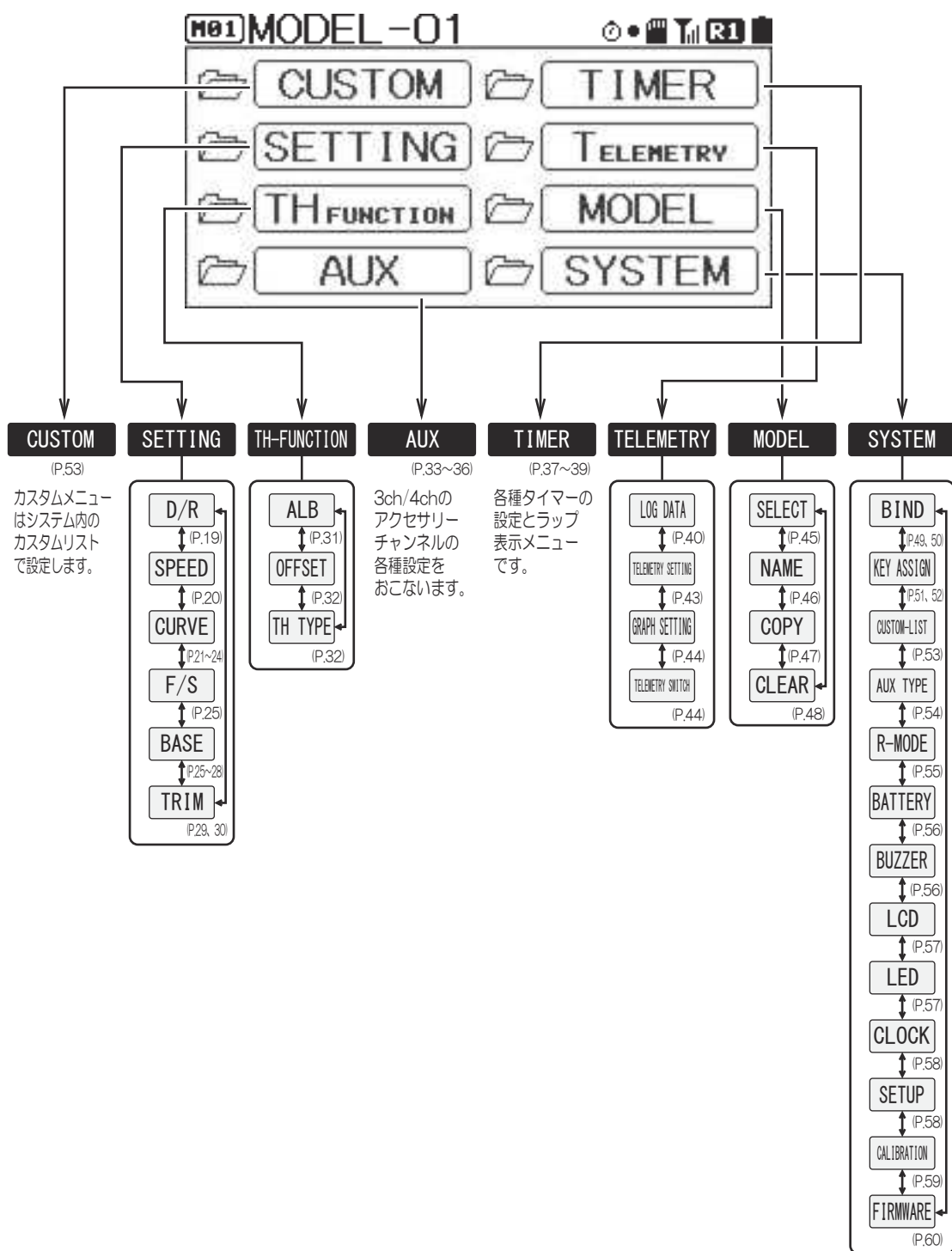
メニュー ウィンド
・メニューを選びます。
(画面例)
※トップ画面から
エンター操作



各機能の使用方法

メニュー構成について

- それぞれのキーを使用して、機能の設定やモデルメモリーの呼び出しなどを簡単におこなえます。
- メニューはセッティング、AUX、モデル、タイマー、テレメトリー、システムのメニューで構成されており、それぞれのメニュー内に関連する機能が含まれています。



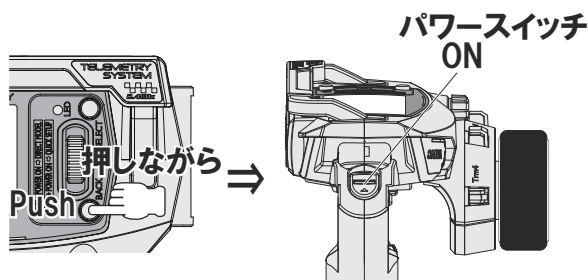
ショートカットメニューについて

- MT-44にはパワースイッチを操作する際に同時にキー操作をおこなうことでショートカットメニューが立ち上がる機能が装備されています。
バックボタンを押しながらパワースイッチをONするとダイレクトモデルセレクトになり、
エンター操作しながらパワースイッチをONするとクイックセットアップ機能が起動します。
ダイレクトモデルセレクトは走行させるモデルを直ぐに選択できる機能で、
クイックセットアップ機能は新しいRCカーをセットアップする際など、簡単操作で各種設定がおこなえる機能です。
- クイックセットアップ機能は起動後エンター操作で
モデル選択→タイプ選択→モデル初期化→RFモード選択→レスポンスモード選択→バインド
→ベース設定の手順となります。

ダイレクトモデルセレクト < DIRECT MODEL >

●ダイレクトモデルセレクト

- 1)バックボタンを押しながらパワースイッチをONします。



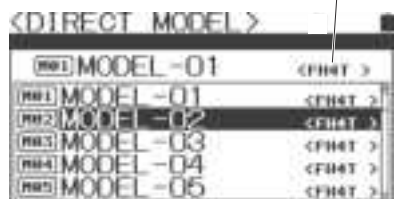
- 2)モデルの選択

マルチセクターで呼び出したいモデルを選択します。

○設定範囲M01～M20

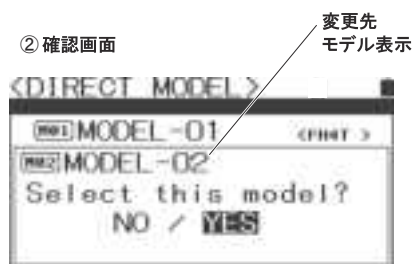
- 3)呼び出すモデルにカーソルを移動し、エンター操作をおこなうと画面上にメッセージが表示されますので、表示にしたがってモデルセレクトをおこなってください。

① MODEL SELECT 画面



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)

② 確認画面



- ・NO →①に戻る
- ・YES→モデルを変更しトップへ



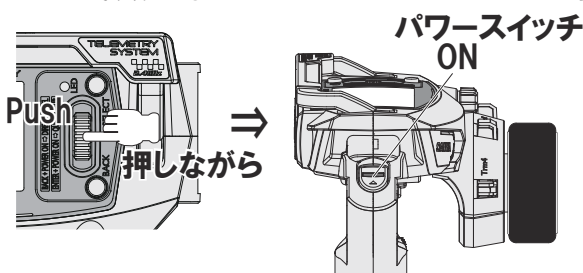
各機能の使用法

ショートカットメニューについて

クイック セットアップ < QUICK SETUP WIZERD >

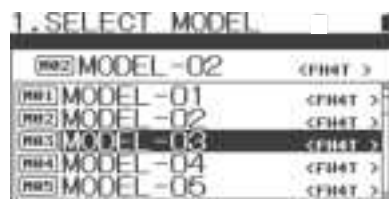
●クイック セットアップ

1) エンター操作しながらパワースイッチをONします。



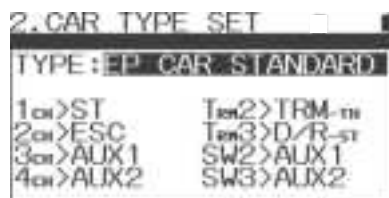
ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)

2) クイック セットアップ画面が表示されます。
エンター操作するとクイック セットアップ
ウィザードがスタートします。



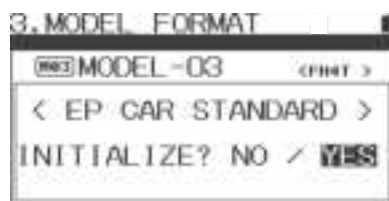
ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)

3) モデルセレクト画面に切り替わり、設定する
モデルをマルチセクターで選択します。
設定するモデルが確定したらエンター操作で
決定します。



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)

4) カータイプ セレクト画面に切り替わりますので
カータイプをマルチセクターで選択します。
カータイプが確定したらエンター操作で
決定します。



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)

タイプ設定

○設定範囲 EP CAR STANDARD

EP CAR (LED UNIT)

EP CAR (SVZ)

EP CAR (SVD)

EP CAR (SV-STK)

EP CAR (SV-Gen2)

GP CAR STANDARD

1/5 GP CAR DUAL BR1

1/5 GP CAR DUAL BR2

CRAWLER 4WS/MOA

○初期値

EP CAR STANDARD

※各タイプでのチャンネル動作は以下ようになります。

TYPE別チャンネル動作仕様

CH	TYPE	EP CAR STANDARD	EP CAR (LED UNIT)	EP CAR (SVZ)	EP CAR (SVD)	EP CAR (SV-STK)	EP CAR (SV-Gen2)	GP CAR STANDARD	1/5 GP DUAL BR1	1/5 GP DUAL BR2	CRAWLER 4WS/MOA
CH1	ステアリング	ステアリング	ステアリング	ステアリング	ステアリング	ステアリング	ステアリング	ステアリング	ステアリング 1	ステアリング	ステアリング F
CH2	ESC	ESC	ESC	ESC	ESC	ESC	ESC	スロットル /ブレーキ	スロットル /ブレーキ	スロットル	ESC F
CH3	AUX1	LED-ST	CODE5	CODE5	CODE5	CODE10	CODE10	AUX1	ステアリング 2	ブレーキ R	ステアリング R
CH4	AUX2	LED-TH	CODE5	CODE5	AUX2	AUX2	AUX2	AUX2	ブレーキ F	ブレーキ F	ESC R

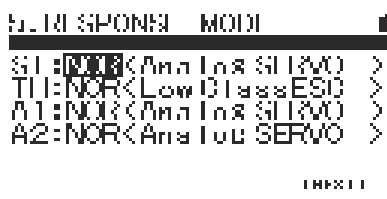
※使用するRCにあわせてタイプ選択してください。

- 5) カートタイプ設定を決定するとしてエンターで決定すると
イニシャライズ(モデル初期化)画面に切り替ります。
メッセージに従ってイニシャライズをおこなってください。

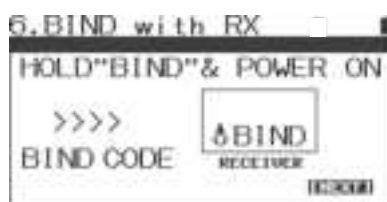
ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



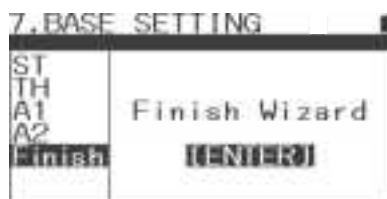
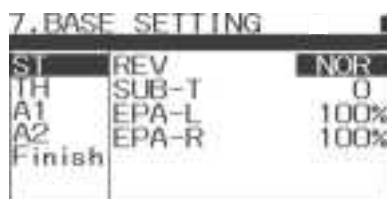
ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



- 6) イニシャライズ(モデル初期化)が完了すると
RFモード選択画面に切り替ります。
使用する受信機にあわせてRFモードを
アップキー/ダウンキーで設定してエンターキーで
決定してください。

○設定範囲 FH4T/FH3
○初期値 FH4T

- ・対応受信機 FH4T
RX-482, RX-481, RX-472, RX-471,
RX-47T, RX-462, RX-461, SV-PLUSシリーズ
- FH3
RX-451R, RX-451, RX-381, RX-380

- 7) 受信機にあわせたRFモードが決定されると
レスポンス モード選択画面に切り替ります。
使用するサーボや機器にあわせて各チャンネルの
レスポンス モードを設定します。
アップキー/ダウンキーで設定し、エンターキーで
決定してください。

○設定範囲 NOR(ノーマル/アナログ サーボ)
SHR(ハイレスポンス/デジタル サーボ)
SSR(スーパーレスポンス/SRG サーボ)

○初期値 NOR(ノーマル/アナログ サーボ)

- 8) レスポンス モードの設定が完了すると
BIND(バインド)設定画面に切り替ります。
画面メッセージに従ってバインド作業を
おこなってください。

- 9) BIND(バインド)が終了するとベース設定画面に
切り替ります。各チャンネルの設定をおこなって
ください。(P.25~28参照)

- 10) ベース設定が終了するとセットアップ ウィザードは
終了します。エンターボタンを押すと、トップ画面へ
切り替ります。

重要

- SHR/SSRモードではアナログサーボは動作しませんのでご注意ください。
誤ってSHR/SSRモードでアナログサーボを使用すると正常に動作せずサーボが壊れますので、絶対にSHR/SSRモードでアナログサーボを使用しないでください。
デジタルサーボ(SRG, ERB, ERSシリーズ, Digital ERGシリーズ)の場合はNOR/SHRモードのどちらでも動作します。
- SSRモードはSRGサーボ, SUPER VORTEX/SV-PLUSシリーズ, HV-12 STOCK SPECIAL, HV-01のみ動作します。
- MT-44はRX-451Rを使用してSHRの表示でBINDしてもSSRモードにはなりません。表示通りの動作になります。
- SHR/SSRモードではBL-RACER, BL-FORCE, F2000, F2200, F3000, F3300, SBL-01, 02, 03CLは動作しません。
必ずNORモードでご使用ください。
- SV-08, HV-10, HV-12, F2500はNOR/SHRモードで動作します。

各機能の使用法

デュアル レート [D/R]

セッティング/SETTING

- ステアリング ホイール、スロットル トリガーを最大に操作したときの舵角を調整できます。RCカーや路面コンディションに対応させるために走らせながら調整します。
- ※ステアリングは左右同時、スロットルはハイ側/ブレーキ側を別々に調整することが可能です。ブレーキ側もEPAで調整するよりも細かく調整できます。
- ステアリング ホイール/スロットル トリガーを操作してリンケージがロックする状態からデュアル レート(D/R)の設定値を増やさないでください。
- スロットル側のデュアル レートを調整することで、より細かな調整が可能になります。
- ※AUX1/AUX2がCODE5/CODE10に設定されている場合にはD/Rの設定変更をおこなっても動作には反映されません。

1) マルチセクターで[SETTING]を選択して
エンター操作で決定します。

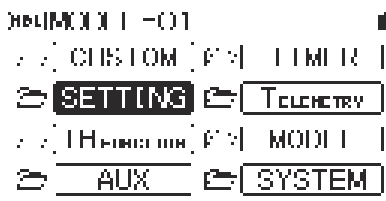
2) セレクトボタンで調整する機能
[ST/TH(H, L)/AUX1/AUX2]を選択します。

3) デュアルレートの設定値をマルチセクター
で調整します。

4) 走行中はステアリングデュアルレートがトリム3、
ブレーキデュアルレートがトリム4で調整できます。
キアサイントリム機能でトリム3、トリム4に他の
機能を割り当てるが可能です。(P.52)

※選択した機能をキャンセルする場合には
バックボタンを操作してください。

- 設定範囲 ST/TH-H/AUX1/AUX2 : 0%~100%
TH-L : 0%~120%
- 初期値 ST/TH/AUX1/AUX2 : 100%



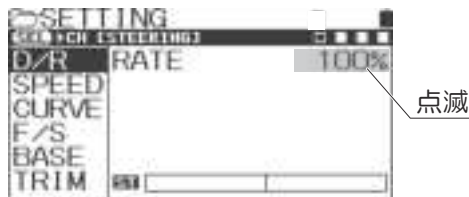
ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)

デュアルレート 設定画面

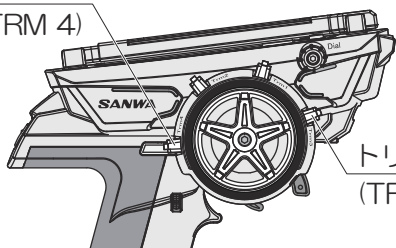


ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)

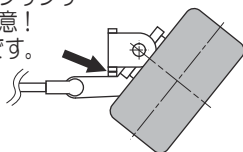
ステアリング デュアルレート設定画面



トリム 4
(TRM 4)



※サーボがロックしてジリジリ
うならないように注意！
注) スロットルも同様です。



注意

●リンケージがロックした状態が長く続くと、
サーボモーター破損の原因になります。

補足

●デュアルレートの調整をおこなう前にステアリング/スロットル リンケージ
のエンド ポイント アジャストをおこなってください。(P.27, 28)

スピード [SPEED]

セッティング/SETTING

- ステアリング/スロットルなどで使用するサーボのスピードを制御する機能です。設定することにより急激な操作をおこなってもRCカーには反応がでないようにすることができます。ステアリング側ではスムーズなコーナワークが可能となり、スロットル側ではパワーセーブしたスロットルワークでコーナーから安定した立ち上がりを実現します。
※AUXのTYPEを[CODE5/CODE10]に設定するとAUXチャンネルのスピード機能を調整しても動作に反映されません。
※AUXチャンネルのスピード設定はステアリング/スロットルを参考にして調整してください。

[ST] ステアリング・スピード

- ステアリング操作に対してステアリング サーボのスピードを遅らせる機能です。ステアリングをきるとき(フォワード)と戻るとき(リターン)のスピードを独立して設定できます。なお、設定より遅いステアリング操作ではスピード機能は動きません。

1) セレクトボタンで[ST(ステアリング)]を選択します。

2) フォワード側の設定(FORWARD)

[FORWARD]を選択してマルチセクターで設定値を調整します。

※選択した機能をキャンセルするにはバックキーを操作してください。

○設定範囲 0～100

○初期値 0

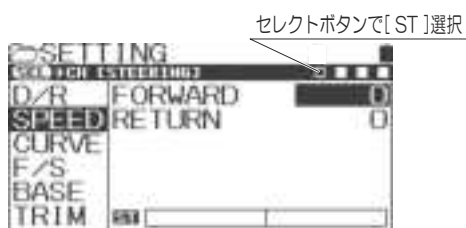
3) リターン側の設定(RETURN)

[RETURN]を選択してマルチセクターで設定値を調整します。

○設定範囲 0～100

○初期値 0

※実際に走行しながら調整をおこなってください。機能を使用しないときや調整しても設定値が決まらないときは設定値を0%(リニア)にしてください。



補足

- RCカーのドライビングではRCカーの動きにあわせたステアリング操作が重要であり過大操作は禁物です。ステアリング-スピードは無駄な操作をおさえ、スムーズなコーナリングを実現できます。
- ステアリング-スピードとステアリング-カーブを併用するとさらに効果が倍増します。

[TH] スロットル・スピード

- スロットル操作に対してスロットル サーボの動作スピードやスピードコントローラーの反応を遅らせる機能です。スロットルをいれるとき(フォワード)と戻るとき(リターン)のスピードを独立して設定できます。なお、設定より遅いスロットル操作ではスピード機能は動きません。※ハイ側のみの設定となり、ブレーキ側は設定できません。

1) セレクトボタンで[TH(スロットル)]を選択します。

2) フォワード側の設定(FORWARD)

[FORWARD]を選択してマルチセクターで設定値を調整します。

※選択した機能をキャンセルするにはバックキーを操作してください。

○設定範囲 0～100

○初期値 0

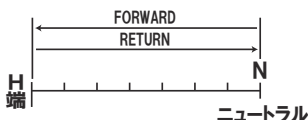
3) リターン側の設定(RETURN)

[RETURN]を選択してマルチセクターで設定値を調整します。

○設定範囲 0～100

○初期値 0

※実際に走行しながら調整をおこなってください。機能を使用しないときや調整しても設定値がきまらないときは設定値を0%(リニア)にしてください。



補足

- RCカーのドライビングではRCカーの動きにあわせたスロットル操作が重要であり過大操作は禁物です。スロットル-スピードは無駄な操作をおさえ、スムーズな動作を実現できます。
- スロットル-スピードとスロットル-カーブを併用するとさらに効果が倍増します。

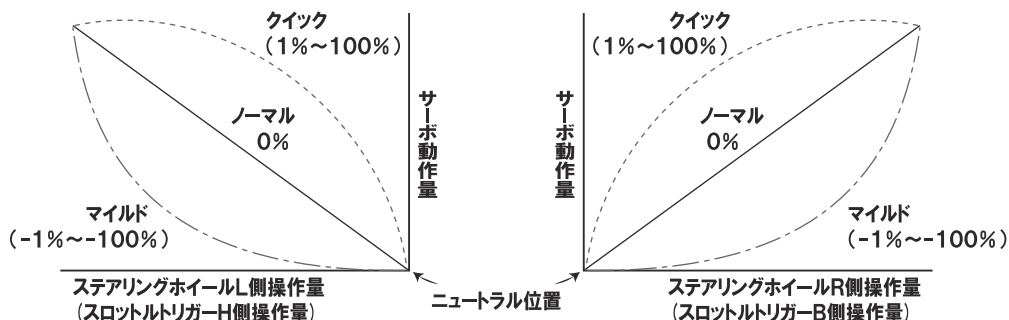
各機能の使用法

カーブ [CURVE]

セッティング/SETTING

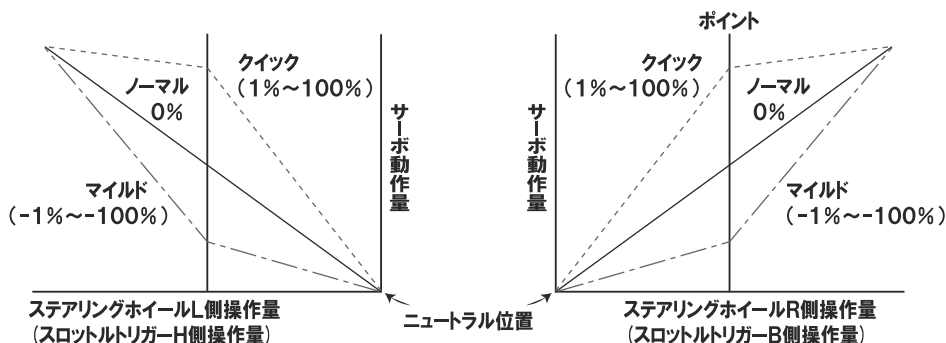
- ステアリング ホイール/スロットル トリガーの操作に対してサーボの動作量を可変させる機能です。設定値をプラス(+)側にする则とクイックに。マイナス(-)側にする则とマイルドに反応します。
 - 曲線的な動作のエクスポネンシャル(EXP)と直線的な動作のアジャスタブル レート コントロール (ARC)の動作を選択できます。
- ※AUXのTYPEを[CODE]に設定するとAUXチャンネルのカーブ機能を調整しても動作に反映されません。
- ※AUXチャンネルのカーブ設定はステアリング/スロットルを参考にして調整してください。

・エクスポネンシャル(EXP)



・アジャスタブル レート コントロール (ARC)

POINTの設定を調整することで動作が可変する位置を変えることができます。



[ST] ステアリング・エクスポネンシャル

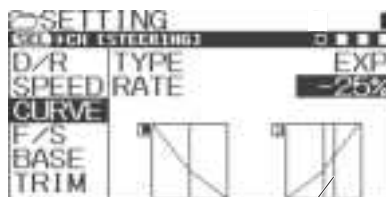
- ステアリング特性をマイルド⇄ニア⇄クイックまで可変できます。一般的にRCカーがオーバーステアに感じられるときは設定値をマイナス側に設定し、アンダーステアに感じたときは数値をプラス側に設定します。ステアリング・エクスポネンシャルはL/R同時設定になります。

1) セレクトボタンでSTを選択して、マルチセクターによりSTのCURVE TYPEを[EXP]に設定します。

2) マルチセクターで設定値を調整します。

- 設定範囲 -100%~100%
- 初期値 0%

※選択した機能をキャンセルする場合にはバックボタンを操作してください。



ステアリング操作位置

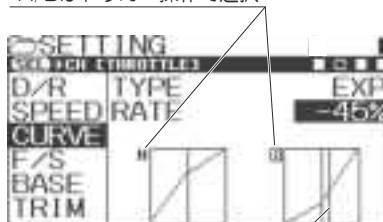
[TH] スロットル・エキスポネンシャル

- スロットル特性をマイルド⇄リニア⇄クイックまで可変できます。一般的に滑りやすい路面やオーバーパワーと感じるときには設定値をマイナス側に設定し、ハイグリップな路面状況やパワーユニットにパワー不足を感じるときには設定値をプラス側に設定します。

ハイ側/ブレーキ側を個別に設定可能です。

- ※ハイ側/ブレーキ側の選択はトリガー操作によっておこないます。

H/Bはトリガー操作で選択



スロットル操作位置

- 1) セレクトボタンでTHを選択して、マルチセクターによりTHのCURVE TYPEを[EXP]に設定します。

- 2) マルチセクターで設定値を調整します。

○設定範囲 -100%~100%

○初期値 0%

[AUX1] AUX1・エキスポネンシャル

- AUX1の動作特性をマイルド⇄リニア⇄クイックまで可変できます。

ハイ側/ロー側を個別に設定可能です。

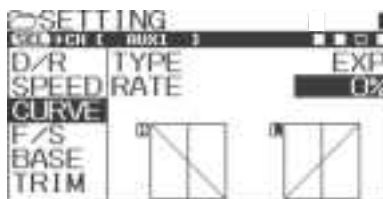
- ※AUX TYPEでAUX1を[CODE5/CODE10]に設定すると設定値を変更しても動作には反映されません。

- 1) セレクトボタンでAUX1を選択して、マルチセクターによりAUX1のCURVE TYPEを[EXP]に設定します。

- 2) マルチセクターで設定値を調整します。

○設定範囲 -100%~100%

○初期値 0%



[AUX2] AUX2・エキスポネンシャル

- AUX2の動作特性をマイルド⇄リニア⇄クイックまで可変できます。

ハイ側/ロー側を個別に設定可能です。

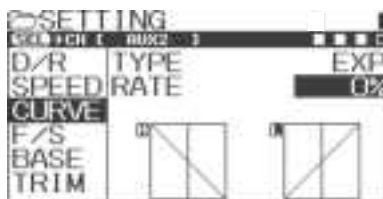
- ※AUX TYPEでAUX2を[CODE5/CODE10]に設定すると設定値を変更しても動作には反映されません。

- 1) セレクトボタンでAUX2を選択して、マルチセクターによりAUX2のCURVE TYPEを[EXP]に設定します。

- 2) マルチセクターで設定値を調整します。

○設定範囲 -100%~100%

○初期値 0%



各機能の使用法

カーブ [CURVE]

セッティング/SETTING

[ST] ステアリング・アジャスタブル レート コントロール

- ステアリング特性をマイルド⇄リニア⇄クイックまで可変できます。一般的にRCカーがオーバーステアに感じられるときは設定値をマイナス側に設定し、アンダーステアに感じたときは数値をプラス側に設定します。ステアリング・アジャスタブル レート コントロールはL/R同時設定になります。

1) セレクトボタンでSTを選択して、マルチセクターによりSTのCURVE TYPEを[ARC]に設定します。

2) レートの設定(RATE)
マルチセクターで[RATE]を選択して設定値を調整します。

○設定範囲 -100%~100%

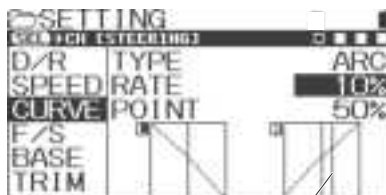
○初期値 0%

3) ポイントの設定(POINT)
マルチセクターで[POINT]を選択して設定値を調整します。

○設定範囲 1%~99%

○初期値 0%

※選択した機能をキャンセルする場合には
バックボタンを操作してください。



ステアリング操作位置

[TH] スロットル・アジャスタブル レート コントロール

- スロットル特性をマイルド⇄リニア⇄クイックまで可変できます。一般的に滑りやすい路面やオーバーパワーと感じるときには設定値をマイナス側に設定し、ハイグリップな路面状況やパワーユニットにパワー不足を感じるときには設定値をプラス側に設定します。ハイ側/ブレーキ側を個別に設定可能です。
- ※ハイ側/ブレーキ側の選択はトリガー操作によっておこないます。

1) セレクトボタンでTHを選択して、マルチセクターによりTHのCURVE TYPEを[ARC]に設定します。

2) レートの設定(RATE)
マルチセクターで[RATE]を選択して設定値を調整します。

○設定範囲 -100%~100%

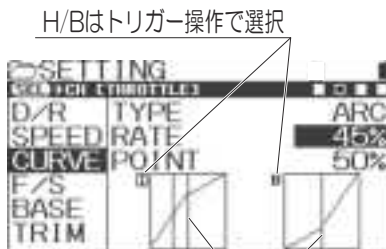
○初期値 0%

3) ポイントの設定(POINT)
マルチセクターで[POINT]を選択して設定値を調整します。

○設定範囲 1%~99%

○初期値 50%

※選択した機能をキャンセルする場合には
バックボタンを操作してください。



H/Bはトリガー操作で選択

ポイント設定位置

[AUX1] AUX1・アジャスタブル レート コントロール

- AUX1の動作特性をマイルド⇄リニア⇄クイックまで可変できます。
ハイ側/ロー側を個別に設定可能です。
- ※AUX TYPEでAUX1を[CODE5/CODE10]に設定すると設定値を変更しても動作には反映されません。

1) セレクトボタンでAUX1を選択して、
マルチセクターによりAUX1の
CURVE TYPEを[ARC]に設定します。

2) レートの設定(RATE)
マルチセクターで[RATE]を選択して
設定値を調整します。

○設定範囲 -100%~100%

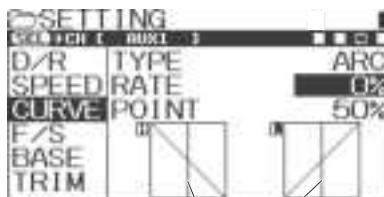
○初期値 0%

3) ポイントの設定(POINT)
マルチセクターで[POINT]を選択して
設定値を調整します。

○設定範囲 1%~99%

○初期値 0%

※選択した機能をキャンセルする場合には
バックボタンを操作してください。



ポイント設定位置

[AUX2] AUX2・アジャスタブル レート コントロール

- AUX2の動作特性をマイルド⇄リニア⇄クイックまで可変できます。
ハイ側/ロー側を個別に設定可能です。
- ※AUX TYPEでAUX2を[CODE5/CODE10]に設定すると設定値を変更しても動作には反映されません。

1) セレクトボタンでAUX2を選択して、
マルチセクターによりAUX2の
CURVE TYPEを[ARC]に設定します。

2) レートの設定(RATE)
マルチセクターで[RATE]を選択して
設定値を調整します。

○設定範囲 -100%~100%

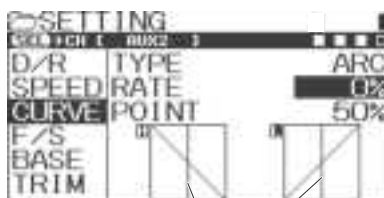
○初期値 0%

3) ポイントの設定(POINT)
マルチセクターで[POINT]を選択して
設定値を調整します。

○設定範囲 1%~99%

○初期値 0%

※選択した機能をキャンセルする場合には
バックボタンを操作してください。



ポイント設定位置

各機能の使用法

フェール セーフ [F/S]

セッティング/SETTING

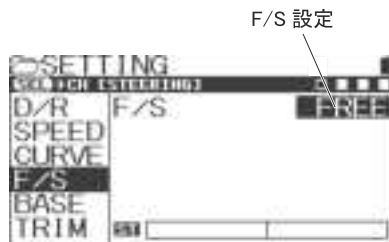
- フェール セーフとは受信機が送信機からの電波を受信できないような状況になった場合に各チャンネルをあらかじめ設定した位置にサーボを保持させる機能で、エンジンRCカーで受信機側のバッテリー電圧が設定電圧以下になった場合にスロットルチャンネル(2ch)のサーボをあらかじめ設定した位置にサーボを保持させる機能がバッテリー フェール セーフです。
 - バッテリー フェール セーフはスロットルチャンネル(2ch)がFREE/HOLDに設定されている場合は設定できません。(※バッテリー フェール セーフはスロットル チャンネルにのみ動作します。)
- ※電動RCカーではバッテリー フェール セーフの機能は使用しないでください。

1) マルチセクターで[F/S]を選択して、セレクトボタンでフェール セーフを設定するチャンネル(ST/TH/AUX1/AUX2)を選択します。

2) 設定するしたチャンネルでエンターしてマルチセクターを操作するとフェールセーフのモード設定がFREE→FS→HOLDの順番で切り替ります。

○設定範囲 FREE/FS(100%～100%)/HOLD

○初期設定 FREE



※各モードについて

FREE (フリー モード)・・・受信機が送信機からの電波を受信できなくなるとサーボへの信号出力を停止してサーボはフリーの状態になります。

FS(フェール セーフ モード)・・・受信機が送信機からの電波を受信できなくなると設定した位置にサーボを保持します。

HOLD (ホールド モード)・・・受信機が送信機からの電波を受信できなくなる直前の位置を保持します。

・FREE/HOLD/FSの各モードは送信機からの信号を再び受信できるようになった場合は自動的に解除します。

3) フェール セーフ(FS)の設定

フェール セーフ モードで動作させる位置に操作して、位置が決定したらエンターキーを長押ししてフェール セーフが働いたときの位置を設定します。

※安全面からフェール セーフの設定はスロットル チャンネルをブレーキ側に設定することをおすすめします。

4) バッテリー フェール セーフの設定

スロットル チャンネルの位置を設定後、カーソルを[B-F/S]に移動して電圧を設定します。

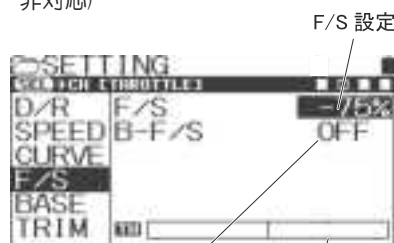
○設定範囲 ・FH3の場合：OFF、3.5v～5.0v (※Li-Poバッテリー非対応)

・FH4の場合：OFF、3.5v～7.4v

※バッテリーフェールセーフはGPカーで使用した場合に受信機バッテリーの電圧が設定した電圧になると

フェールセーフが動作する機能です。

電動RCカーではバッテリーフェールセーフの機能は使用しないでください。



5) フェール セーフの確認

フェール セーフの設定がおこなわれている状態で送信機の電源をOFFにして、フェール セーフを設定したポジションにサーボが移動するか確認してください。

重要

●フェール セーフについて

フェール セーフ機能をONにした場合は走行前にフェール セーフの設定を確認してください。走行中にフェール セーフの設定を変更しないでください。

ベース [BASE]

セッティング/SETTING

- ベース[BASE]とはRCカーに合わせて各チャンネルのサーボやスピードコントローラー等の動作方向を決めるリバースやニュートラル位置を調整するサブトリム、動作量を設定するエンドポイントアジャスト(EPA)の機能を一つの機能(ベース)に集約させて一括で設定できるようにした機能です。

リバース[REV]

- ステアリング/スロットル/AUX1/AUX2を操作したときに、操作とサーボの動作が逆になる場合に使用します。

- 1) マルチセクターで[BASE]を選択して、セレクトボタンで設定するチャンネル(ST/TH/AUX1/AUX2)を選択します。
 - 2) 設定するチャンネルでエンター操作してマルチセクターを操作するとリバースの設定が切り替わります。
- ※選択した機能をキャンセルする場合にはバックキーを操作してください。

○設定範囲 NOR/REV

○初期値 NOR



REV設定

サブトリム[SUB-T]

- サブトリム機能を使用してステアリング/スロットル/AUX1/AUX2のニュートラル(センター)を補正し、トリムはセンター位置でできるようにします。RCカーへサーボを搭載するときにサブトリムでサーボのセンターを出してからエンドポイントアジャストの調整をおこなってください。

- 1) 使用する前に各メイントリムをセンター(0)にしてください。
- 2) マルチセクターで[SUB-T]を選択して、セレクトボタンでサブトリムの調整をおこなうチャンネル(ST/TH/AUX1/AUX2)を選択します。

- 3) 設定するチャンネルでエンター操作して決定します。

- 4) サーボホーン(サーボセーバーホーン)をセンター位置にいちばん近いところに取り付けます。

※サーボホーンの取り付け位置については車体側の取扱説明書にしたがってください。

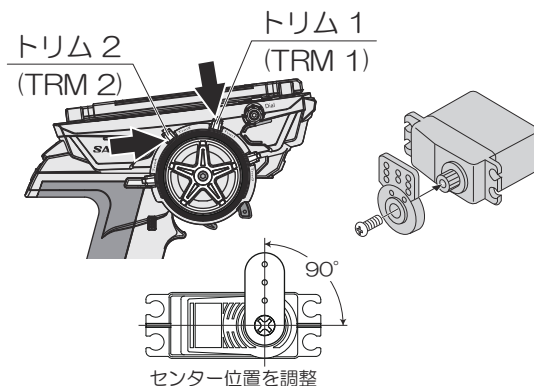
- 5) マルチセクターを操作してセンターを調整します。

○設定範囲 L150~R150(ST)、
H150~B150(TH)、
H150~L150(AUX1, AUX2)

○初期値 0



SUB-T設定



注意

- サーボにサーボホーンを取り付ける際に、できるだけセンターに近い位置でサーボホーンを固定してサブトリムでセンターを出してください。サブトリムと送信機メイントリムが片方しかたよると、ステアリングホイールやスロットルトリガーにレッドバンド(サーボが動かない領域)が発生します。

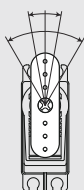
重要

●トリムとサブトリムについて

トリムとは、サーボのニュートラル(センター)位置を調整する機能です。ステアリングサーボを車体に搭載後走行させて直進しない場合にステアリングのメイントリムを調整します。

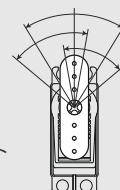
また、エンジンRCカーでのキャブレターのニュートラル位置はサーボ搭載後にリンクージ調整と共にスロットルサーボのニュートラル調整の必要があります。ニュートラル位置の調整はサーボ搭載後におこなうだけでなく、タイヤの磨耗やシャシーのねじれなど走行中の変化に対応するためにも必要になります。MT-44のトリムは動作角の端はそのままニュートラル位置だけを調整するセンタートリムと動作角の端とニュートラル位置と一緒に動かすパラレルトリムの2種類があります。サーボホーンを固定する前にニュートラル(センター)位置を調整するサブトリムはパラレルトリムで、メイントリムがセンタートリムです。

○センタートリム(メイントリム)
トリムでニュートラル位置を移動しても動作角の端は動きません。



○パラレルトリム(サブトリム)

トリムでニュートラル位置を移動すると動作角の端も一緒に移動します。リンクージをおこなった後でサブトリムを調整した場合はエンドポイントアジャスト(EPA)の再調整が必要になります。



各機能の使用法

ベース [BASE]

セッティング/SETTING

- ベース[BASE]とはRCカーに合わせて各チャンネルのサーボやスピードコントローラー等の動作方向やニュートラル位置を調整するサブトリム、動作量を設定するエンドポイントアジャスト(EPA)の機能を一つの機能(ベース)に集約させて一括で設定できるようにした機能です。

エンドポイントアジャスト[EPA]

- ステアリングホイール/スロットルトリガーを操作した際のステアリングサーボの左右動作量の調整、スロットルサーボのハイ側、ブレーキ側動作量の調整やAUX1、AUX2(3ch、4ch)のサーボ動作量の調整が可能です。

[ST-EPA] ステアリング・エンドポイントアジャスト

- リンケージやサスバランス、タイヤ径の違いなどから左右のコーナリング半径が違います。このようなときに左右のサーボ動作量を調整して左右のコーナリング半径が同じになるように調整します。

- 1) ステアリング・エンドポイントアジャスト(ST-EPA)を調整する前にサーボのニュートラル調整(P.26)をおこなってください。

- ・ニュートラル調整とは、電源を入れてサーボホーンをおおよそのセンター位置に取り付け、サブトリムでセンター位置をあわせることです。

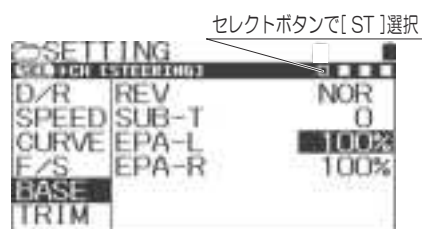
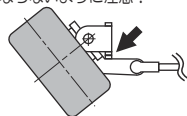
- 2) マルチセクターで[EPA-L/EPA-R]のどちらかを選択してエンターで決定します。

- 3) 動作量をマルチセクターで調整します。
※カーソルがEPA-L/EPA-Rのどちらかに有る場合はステアリング操作でもカーソル移動が可能です。

○設定範囲 L/R 0~150%

○初期値 L/R 100%

※サーボがロックしてジリジリうならないように注意!



セレクトボタンで[ST]選択

注意 ●リンケージがロックした状態が長く続くと、サーボ破損の原因になります。

[TH-EPA] スロットル・エンドポイントアジャスト

- FETスピードコントローラーのハイポイント、ブレーキポイントの調整、エンジンカーのキャブレター、ブレーキ動作量の調整をおこないます。

- 1) エンジンカーの場合にはスロットル・エンドポイントアジャスト(TH-EPA)を調整する前にサーボのニュートラル調整(P.16)をおこなってください。

- ・ニュートラル調整とは、電源を入れてサーボホーンをおおよそのセンター位置に取り付け、サブトリムでセンター位置をあわせることです。

- 2) セレクトボタンで[TH/スロットル]を選択します。

- 3) マルチセクターで[EPA-H/EPA-B]のどちらかを選択してエンターで決定します。

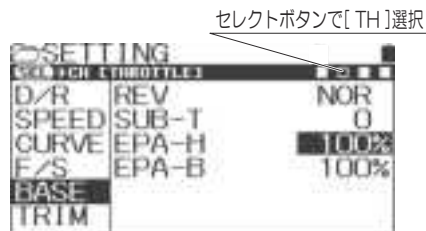
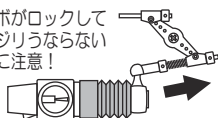
- 4) マルチセクターで動作量を調整します。
FETスピードコントローラーを調整する場合には通常ハイ側、ブレーキ側共に設定値を100%にしており、FETスピードコントローラー側でニュートラル、ハイポイント、ブレーキポイントを設定します。
(FETスピードコントローラーによって設定方法が異なります。)

- ※カーソルがEPA-H/EPA-Bのどちらかに有る場合はトリガー操作でもカーソル移動が可能です。

○設定範囲 H/B 0~150%

○初期値 H/B 100%

※サーボがロックしてジリジリうならないように注意!



セレクトボタンで[TH]選択

注意 ●スロットルリンケージでキャブレター全開側、ブレーキ側のEPA設定値が大きすぎるとサーボがロックした状態になりサーボモーターの故障原因となり、暴走の危険があります。

[AUX1-EPA] AUX1・エンド ポイント アジャスト

●AUX1はアクセサリ等の動作に使用でき、EPAにより最大舵角(動作量)の調整が可能です。
H(ハイ)/L(ロー)個別に設定可能なので、こまかい調整が可能です。

※AUX TYPEでAUX1を[CODE5/CODE10]に設定するとEPAを調整しても動作は反映されません。

1)AUX1・エンド ポイント アジャスト(AUX1-EPA)を調整する前にサーボのニュートラル調整(P.26)をおこなってください。

・ニュートラル調整とは、電源を入れてサーボ ホーンをおおよそのセンター位置に取り付け、サブ トリムでセンター位置をあわせることです。

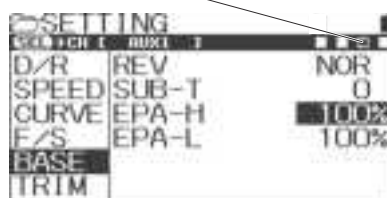
2)セレクトボタンで[AUX1]を選択します。
マルチセクターで[EPA-H/EPA-L]のどちらかを
選択してエンターで決定します。

3)マルチセクターで動作量を調整します。

○設定範囲 H/L 0～150%

○初期値 H/L 100%

セレクトボタンで[AUX1]選択



[AUX2-EPA] AUX2・エンド ポイント アジャスト

●AUX2はアクセサリ等の動作に使用でき、EPAにより最大舵角(動作量)の調整が可能です。
H(ハイ)/L(ロー)個別に設定可能なので、こまかい調整が可能です。

※AUX TYPEでAUX2を[CODE5/CODE10]に設定するとEPAを調整しても動作は反映されません。

1)AUX2・エンド ポイント アジャスト(AUX2-EPA)を調整する前にサーボのニュートラル調整(P.26)をおこなってください。

・ニュートラル調整とは、電源を入れてサーボ ホーンをおおよそのセンター位置に取り付け、サブ トリムでセンター位置をあわせることです。

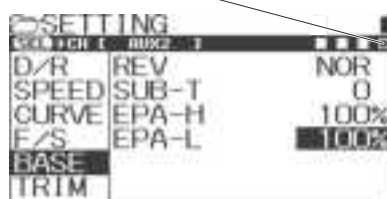
2)セレクトボタンで[AUX2]を選択します。
マルチセクターで[EPA-H/EPA-L]のどちらかを
選択してエンターで決定します。

3)マルチセクターで動作量を調整します。

○設定範囲 H/L 0～150%

○初期値 H/L 100%

セレクトボタンで[AUX2]選択



各機能の使用法

トリム [TRIM]

セッティング/SETTING

●トリムは各チャンネルのトリムの調整とトリム動作(センター/パラレル)の設定がおこなえます。

トリム[TRIM]

●トリムでそれぞれのチャンネル(ST/TH/AUX1/AUX2)のニュートラル(センター)を補正します。

●初期設定ではトリム1(TRM1)にステアリング、トリム2(TRM2)にスロットルが設定されています。

1)トリム調整をおこなうチャンネル(ST/TH/AUX1/AUX2)をセレクトボタンで選択します。

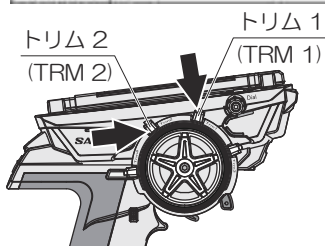
2)エンター操作で決定してマルチセクターで調整します。

○設定範囲 ST : L100~R100
TH : H100~B100
AUX1 : H100~L100
AUX2 : H100~L100

○初期値 ST : 0
TH : 0
AUX1 : 0
AUX2 : 0

※走行中のトリム調整はTRM1(ST)、TRM2(TH)で調整してください。キーアサイントリム機能でトリムレバーの位置変更が可能です。(P.52)

セレクトボタンでチャンネル選択



重要

●トリムについて

トリムとは、サーボのニュートラル(センター)位置を調整する機能です。

ステアリング サーボを車体に搭載後、走行させて直進しない場合にトリムで調整します。

ニュートラル位置の調整は、サーボ搭載後におこなうだけでなくタイヤの磨耗やシャシーのねじれなど走行中の変化に対応するためにも必要になります。

●リンクージ調整をするときにセンター位置を調整するのはサブトリムです。(P.26)



●トリムとサブトリムが片側にかたよると、ステアリングホイールやスロットルトリガーにデッドバンド(サーボが動かない領域)が発生します。サーボホーンを取り付ける際にできるだけセンターに近い位置で固定してサブトリムでセンターを出してください。

トリム タイプ[TRIM TYPE]

●各チャンネルのトリム動作をセンタートリム(CENT)とパラレルトリム(PARA)に設定可能です。

●初期設定ではトリム1(TRM1)にステアリング、トリム2(TRM2)にスロットルが設定されています。

1)設定するチャンネル(ST/TH/AUX1/AUX2)をセレクトボタンで選択します。

2)エンター操作で決定してマルチセクターで調整します。

○設定範囲 CENT(センタートリム)/PARA(パラレルトリム)

○初期値 CENT(センタートリム)

セレクトボタンでチャンネル選択



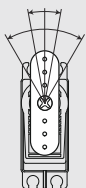
重要

●センタートリムとパラレルトリムについて

トリム動作時に動作角の端はそのままニュートラル位置だけを調整するのがセンタートリムでトリム動作時に動作角の端とニュートラル位置を一緒に動かすパラレルトリムの2種類があります。サーボホーンを固定する前にニュートラル(センター)位置を調整するサブトリムはパラレルトリムで、メイントリムがセンタートリムとパラレルトリムの選択式になります。用途に合わせて設定してください。

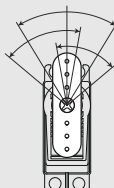
○センタートリム

トリムでニュートラル位置を移動しても動作角の端は動きません。



○パラレルトリム

トリムでニュートラル位置を移動すると動作角の端も一緒に移動します。リンクージをおこなった後でサブトリムを調整した場合はエンドポイントアジャスト(EPA)の再調整が必要になります。



コンバート[CONVERT]

●各チャンネルで調整されたトリムをサブトリムとEPAに変換し、トリムをセンターに補正する機能です。
設定によってはコンバートできない場合があります。

1) セレクトボタンでコンバートをおこなうチャンネル
(ST/TH/AUX1/AUX2)を選択します。

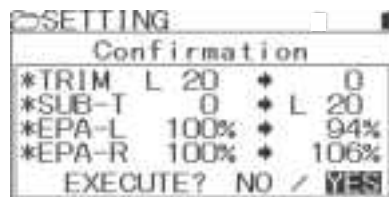
2) 設定するチャンネルが決定したらエンター操作で
コンバート機能を動作させます。

3) 例としてステアリングトリムが[L20]の状態
EPAがそれぞれ100%の場合にコンバート機能
を使用した場合には右図の流れになります。
トリムがセンター(0)になり、トリム移動分が
サブトリムとEPAに変換されます。

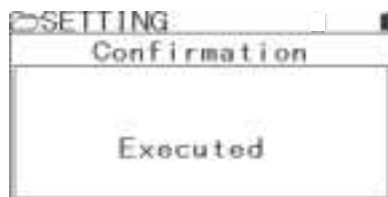
※コンバートは各チャンネルで設定可能です。



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



コンバート終了 ↓↓



各機能の使用法

スロットルファンクション/TH-FUNCTION

- スロットルファンクションはスロットルチャンネルのALB(アンチロックブレーキ)、OFFSET(オフセット)、TH TYPE(スロットルタイプ)の設定値を調整することが可能です。

アンチロックブレーキ [ALB]

スロットルファンクション/TH-FUNCTION

- アンチロックブレーキにより、グリップが低い路面で安定したブレーキングが可能となります。
- ブレーキングが安定するため、狙い通りのコーナリングラインをトレースすることができます。

- 1) マルチセクターでスロットルファンクションを選択してエンター操作して決定します。
- 2) マルチセクターで[ALB]を選択してエンターで決定するとALB設定メニューに切り替わります。
- 3) ストロークの設定(STROKE)
マルチセクターでALBのストローク設定をおこないます。
ストロークはブレーキ時の繰り返し動作の幅です。

- 設定範囲 OFF、0~100%
- 初期値 OFF ※OFFではALBは動作しません。

- 4) ポイントの設定(POINT)
マルチセクターでALBのポイント設定をおこないます。
ポイントはブレーキを操作したときにALBが動作を始める位置です。

- 設定範囲 5%~100%
- 初期値 80%

- 5) ラグの設定(LAG)
マルチセクターでALBのラグ設定をおこないます。
ラグはポイントまで操作してからALBが動作を始めるまでのタイムラグの設定です。

- 設定範囲 0.00s~1.00s
- 初期値 0.00s

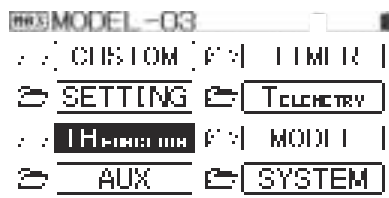
- 6) サイクルの設定(CYCLE)
マルチセクターでALBのサイクル設定をおこないます。
サイクルはブレーキ時の繰り返し動作の周期設定です。

- 設定範囲 0.01s~1.00s
- 初期値 0.03s

- 7) デューティーの設定(DUTY)
マルチセクターでALBのデューティー設定をおこないます。
デューティーはサイクルのブレーキONとブレーキOFFの比率設定をおこないます。

- 設定範囲 20~100%
- 初期値 50%

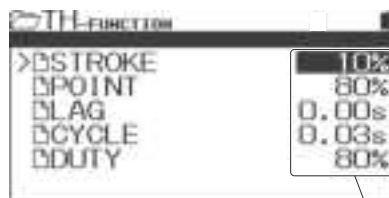
※アンチロックブレーキが動作中はXイルミネーション、ファンクションLEDが点滅します。



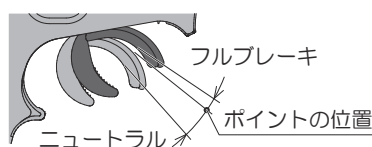
ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



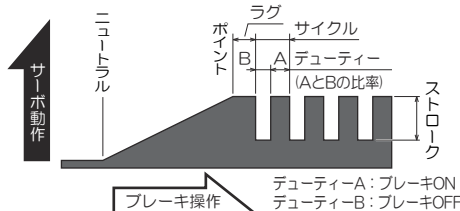
ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



各パラメーターを設定してください。



※ポイントの位置からフルブレーキに操作しているときにALBが動作します。



⚠ 補足

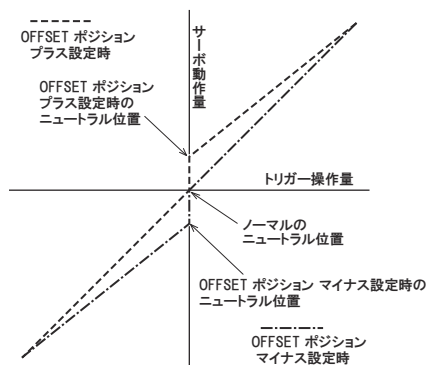
- RCカーのタイヤがグリップ力を失わない(すべらない)程度にブレーキを強めに効かせ、タイヤがロックしてすべる寸前にアンチロックブレーキが働くように調整してください。
- 電動RCカーでバック付きスピードコントローラーを使用してALBを設定するとバックの動作が出来なくなる場合があります。バック動作を使用する場合にはALBをOFFにしてください。

オフセット [OFFSET]

スロットル ファンクション/TH-FUNCTION

- エンジンRCカーのエンジン始動時にスロットル ニュートラルの位置を移動することで、エンジンの始動性が向上します。
- エンジンRCカーの給油時にエンジンが停止しないようにアイドルリングを上げた位置に固定できます。
- 設定したスイッチを操作することでRCボート等のエンジンを停止させることができます。
- オフセット機能で様々なパワーソースに対応できます。
- オフセット機能のON/OFFは出荷状態ではスイッチやキーに割り当てられていません。
 使用するにはキーアサインで機能を割り当ててください。(P.51、52)

- 1) マルチセクターでスロットルファンクションを選択してエンター操作して決定します。
 - 2) マルチセクターで[OFFSET]を選択してエンターで決定するとOFFSET設定メニューに切り替わります。
 - 3) オフセットの設定(OFFSET)
 マルチセクターでオフセット機能のON/OFF設定をおこないます。
 ○設定範囲 ON/OFF
 ○初期値 OFF
 - 4) タイプの設定(TYPE)
 マルチセクターでオフセットのタイプ設定をおこないます。
 ○設定範囲 I-UP(アイドル アップ)/N-BR(ニュートラル ブレーキ)
 ○初期値 I-UP
 - 5) ポイントの設定(POINT)
 マルチセクターでオフセットのポイント設定をおこないます。
 ○設定範囲 0%~100%
 ○初期値 0%
 - 6) ビープの設定(BEEP)
 オフセット動作時のアラーム(ビープ)の設定をおこないます。
 ○設定範囲 ON/OFF
 ○初期値 ON
- ※オフセット機能が動作している場合はXイルミネーション、ファンクションLEDが点滅します。



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



スロットル タイプ [TH TYPE]

スロットル ファンクション/TH-FUNCTION

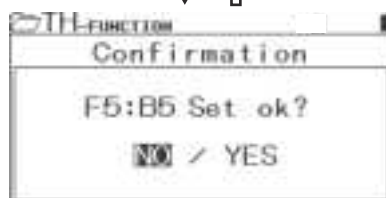
- スロットルのニュートラル位置を移動して、前進側とブレーキ(後進)側の動作比率を7:3から5:5のどちらかに設定できます。
- ※使用するスピードコントローラー等に合わせてスロットル タイプの設定をおこなってください。

- 1) マルチセクターでスロットルファンクションを選択してエンター操作して決定します。
- 2) マルチセクターで[TH TYPE]を選択してエンターで決定します。
- 3) スロットルタイプ設定
 マルチセクターでスロットル タイプの設定をおこないます。
 ○設定範囲 F7:B3/F5:B5
 ○初期値 F7:B3

※TH TYPEを変更すると確認画面へ移行して画面上にメッセージが表示されますので、メッセージにしたがって操作してください。



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



各機能の使用法

エーユーエックス/AUX

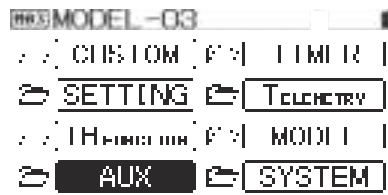
- エーユーエックスはAUX1、AUX2(3ch、4ch)の動作を設定する機能です。
STEP AUX(ステップ)、POINT AUX(ポイント)、4WS(4輪操舵：同位相、逆位相)、MOA(前後別駆動)、
AUX-MIX(AUXミキシング：ST→AUX/TH-AUX)、CODE5/CODE10(コード通信)から選ぶことができます。
※AUX TYPEの設定はシステムメニューでおこないます。使用する用途にあわせて設定してください。

ステップエーユーエックス [STEP AUX]

エーユーエックス/AUX

- ステップAUX機能の設定により、割り当てたトリムやスイッチの操作により動作量を設定できます。
- 工場出荷時にはAUX機能はステップAUXに設定されています。

- 1) マルチセクターで[AUX]を選択して
エンター操作で確定します。
- 2) ステップエーユーエックスの設定(STEP AUX)
セレクトボタンで動作させる[CH]を決定して、
マルチセクターで動作ポジションを設定します。
※動作量はEPA(エンドポイントアジャスト P.27、28)でも
設定可能です。
※使用方法にあわせてキーアサインで機能をトリムや
ダイヤルに割り当てて使用してください。



ENTER(エンター) ↓ ↑ BACK(バック)



動作ポジション表示

セレクトボタンでチャンネル選択

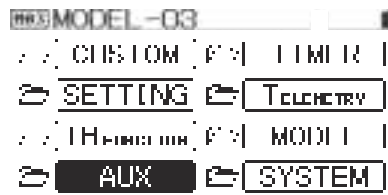
ポイントエーユーエックス [POINT AUX]

エーユーエックス/AUX

- ポイントAUXを設定することで、AUX1/AUX2(3ch/4ch)の動作をスイッチやトリムに割り当てることで
設定したポイントへサーボを動作させることができます。
動作したポイントはEPA(エンドポイントアジャスト)で設定できますので、使用方法にあわせてポイント位置
を調整してください。
※ポイント数は2～6ポイントになり、AUX TYPEで設定します。

- 1) マルチセクターで[AUX]を選択してエンター操作で
確定します。
- 2) ポイントエーユーエックスの設定(POINT AUX)
セレクトボタンで動作させる[CH]を決定して、
マルチセクターで動作ポイントを設定します。

- ※使用方法にあわせて[SYSTEM]の[AUX TYPE]で
[POINT AUX]に設定してください。
- ※キーアサインでダイヤルやトリムに機能を割り当てて動作
させるか、マルチセクターで操作をおこなってください。



ENTER(エンター) ↓ ↑ BACK(バック)



4ホイール ステアリング(4輪操舵：同位相/逆位相[4WS])

エーユーエックス/AUX

●割り当てたトリムやスイッチの操作により4ホイールステアリング(4輪操舵)の動作を制御します。

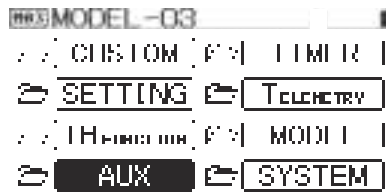
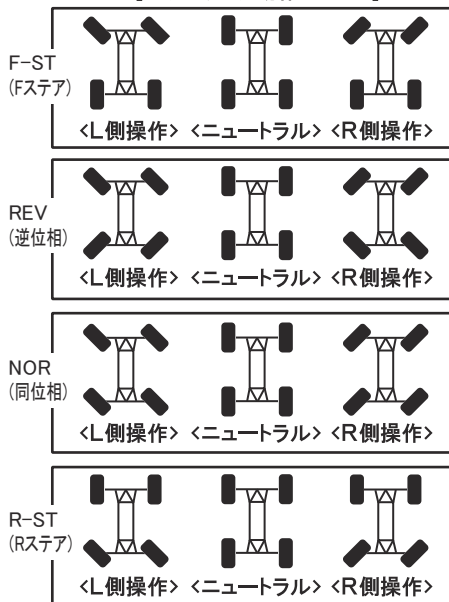
1) マルチセクターで[AUX]を選択してエンター操作で確定します。

2) 動作モードの設定

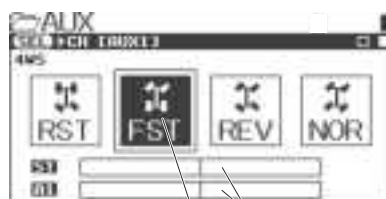
マルチセクターで4WSの動作モードを設定します。
使用方法にあわせて動作モードを設定してください。

※走行しながら使用する場合にはトリムかスイッチに
動作モードの機能を割り当ててください。

[ステアリング動作イメージ]



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



サーボモニター
動作モードの切り替え

各機能の
使用方法

モーター オン アクスル[MOA] (前後別駆動)

エーユーエックス/AUX

●モーター オン アクスル(MOA)を設定することで前後2モーター仕様の車体で前後の駆動比を調整することができます。

1) マルチセクターで[AUX]を選択してエンター操作で確定します。

2) 動作モードの設定

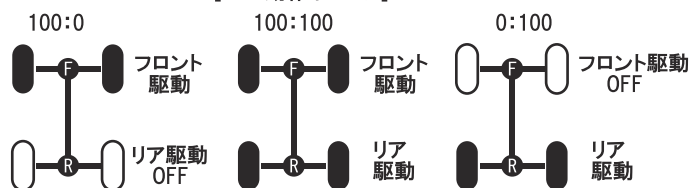
マルチセクターでMOAの動作を設定します。

※前後駆動配分を変更するステップ設定は[SYSTEM]の
[AUX TYPE]の[MODE]で設定してください。

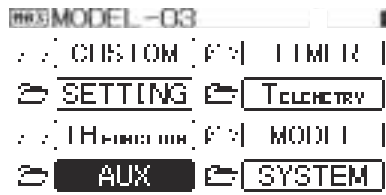
※使用する際はトリムかダイヤルに機能を割り当てるか
マルチセクターで操作をおこなってください。

※リアモーターを制御するスピードコントローラーはTYPEを
MOAに設定したチャンネル(AUX1/AUX2)に接続してください。

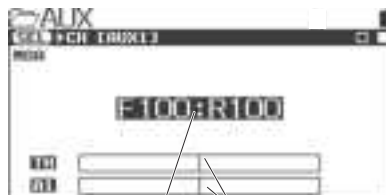
[MOA動作イメージ]



※比率を変更することで前後の駆動比を調整できます。



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



サーボモニター
前後駆動比

各機能の使用法

エーユーエックス/AUX

- エーユーエックスはAUX1、AUX2(3ch、4ch)の動作を設定する機能です。
STEP AUX(ステップ)、POINT AUX(ポイント)、4WS(4輪操舵：同位相、逆位相)、MOA(前後別駆動)、
AUX-MIX(AUXミキシング：ST→AUX/TH-AUX)、CODE5/CODE10(コード通信)から選ぶことができます。
※AUX TYPEの設定はシステムメニューでおこないます。使用する用途にあわせて設定してください。

エーユーエックスミキシング[AUX-MIX]

エーユーエックス/AUX

- エーユーエックスミキシングを設定することでステアリングからAUXに、スロットルからAUXにミキシングをかけることができます。

※[SYTEM]の[AUX TYPE]で使用する動作にあわせてAUX TYPEとMODEを設定してください。

- 工場出荷時にはAUX機能はステップAUXに設定されています。

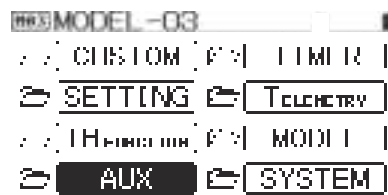
- 1) マルチセクターで[AUX]を選択して
エンター操作で確定します。
- 2) ミキシング レートの設定
マルチセクターでミキシング レートを設定します。

○設定範囲 0～100%

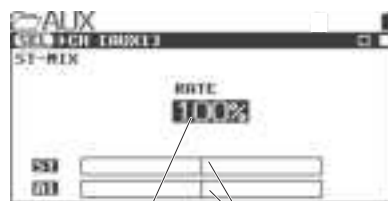
○初期値 100%

※使用方法にあわせて[SYSTEM]の[AUX TYPE]で[AUX MIX]に設定し、ミキシング動作は[MODE]で設定してください。

※キーアサインでトリムやスイッチにミキシング レートの機能を割り当てるか、マルチセクターで操作をおこなってください。



ENTER(エンター) ↓ ↑ BACK(バック)



サーボモニター

ミキシング レートの設定

コードエーユーエックス (CODE AUX)

エーユーエックス/AUX

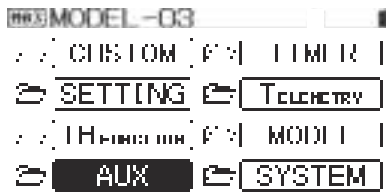
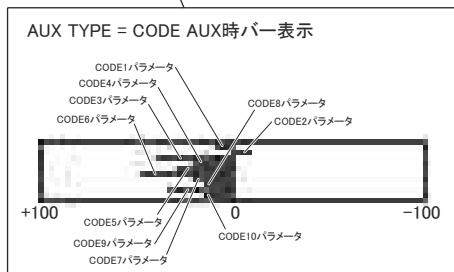
- コードエーユーエックス (CODE AUX) の機能は CODE5、CODE10 のそれぞれのコードに設定値を割りてすることでコード通信をおこなう機能です。(CODE5/5コード、CODE10/10コード)
CODE AUX に対応するスピードコントローラー (SUPER VORTEX シリーズや SV-PLUS シリーズ) や ジャイロシステム (SGS-01C/SGS-01D) などの設定を変更するための拡張機能です。
- CODE AUX1 と CODE AUX2 の2系統の設定が可能です。
- ※CODE の設定は [SYSTEM] メニューの [TYPE] の設定で起こいます。[MODE] の設定によってそれぞれの機器にあわせて表示が変更されます。[MODE] の設定を [USER] に設定するとそれぞれのコード表示はユーザーでの設定が可能になります。
- ※AUX チャンネルを CODE AUX として使用する場合には、BIND 設定の A1/A2 のレスポンスモードは必ず [SHR] に設定してください。(P.49、50 参照)
- ※CODE AUX を使用する場合には、使用する受信機の CH3、CH4 には絶対にサーボを接続しないでください。
- ※使用する際はキーアサインでトリムやダイヤルに機能を割り当てるか、マルチセクターで操作をおこなってください。

- 1) マルチセクターで [AUX] を選択して
エンター操作で確定します。
- 2) コードAUXの設定
設定変更する [CODE AUX] をエンター操作で
選択して、マルチセクターで設定値を調整します。

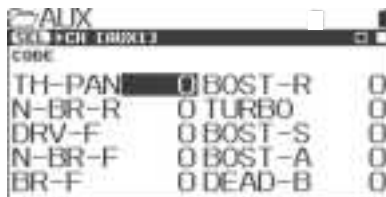
○設定範囲 -100~100%

○初期値 0%

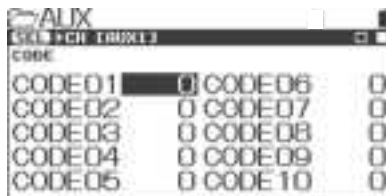
- ※AUX TYPE が CODE5/CODE10 に設定されている場合にトップ画面でのサーボモニター表示部に CODE AUX の設定状態にあわせて下記のように表示されます。



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



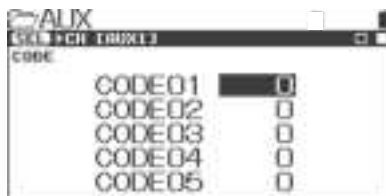
TYPE 設定が [CODE10] で
MODE 設定が [SV-STK] の場合



MODE 設定が [USER] の場合



TYPE 設定が [CODE5] で
MODE 設定が [SVZ] の場合



MODE 設定が [USER] の場合

各機能の使用法

タイマー/TIMER

- ラップ タイマー、インターバル タイマー、ダウン タイマーの3つのタイマー機能を備えています。
 - タイマーを選択して、セレクトボタンを操作するとタイマー画面と設定画面の切り替えになります。
- ※タイマー動作中はXイルミネーション、ファンクションLEDが点滅します。



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



<LAP TIMER画面>

- LAP TIMER画面で計測したラップ タイムを確認することができます。
 - ラップタイマーが動作/停止している状態でエンター操作をおこなうとラップタイム表示に切り替わります。
- マルチセクターの操作で各ラップタイムを確認できます。

セレクトボタン



<SETUP画面>

セッアップ [SETUP]

タイマー/TIMER

- セッアップメニューでタイマーの各種設定をおこないます。

1) TYPEの設定

マルチセクターで[TYPE]を選択して設定をおこないます。

○設定範囲 LAP/INT/DOWN

○初期値 LAP

- ・LAP：999周までの各ラップ計測、記録が可能(モデル共通)
- ・INT：設定した時間でタイマーが動作します。
- ・DOWN：走行時間やGPカーでの燃費計算の目安になります。

2) GOAL-TIMEの設定

ゴールタイムを設定することでアラームが動作します。

○設定範囲 00：00～99：59 (00：01単位)

○初期値 5：00

3) INTERVALの設定

設定した時間でアラームが動作します。(経過時間をお知らせします。)

○設定範囲 00：00～99：59 (00：01単位)

○初期値 01：00

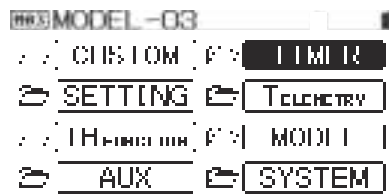
4) LAP-NAVIの設定

走行時に設定したタイムでアラームを動作させ、目標タイムの目安とします。

○設定範囲 00：00, 01s～99：59, 99

○初期値 --：--，--

※00：00, 00ではラップナビは動作しません。



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



セレクトボタン ↓



5) STARTの設定

タイマースタートの設定をトリガー連動/スイッチ/ランダムから設定します。

○設定範囲 TRIGGER/KEY/STARTER

○初期値 TRIGGER

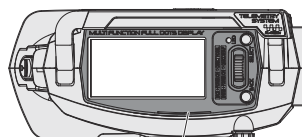
6) DATA-LOGの設定

タイマーと連動でテレメトリーデータのログ(記録)の設定をおこないます。

○設定範囲 OFF/ON

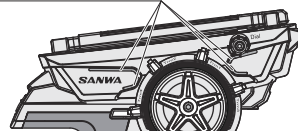
○初期値 ON

※ログはタイマー機能に連動してスタートします。



ファンクションLED

Xイルミネーション



タイマー動作中はLEDが点滅します。

ラップ タイマー [LAP TIMER]

タイマー/TIMER

●999周までの各ラップ計測、記録ができます。(モデル共通)

●ブリアラーム(PRE-ALM)を搭載しており、ゴール前に自動でアラームが鳴ります。

1) マルチセクターで[タイマー]を選択し、エンター操作で決定します。

2) タイマーのスタート

タイマーのスイッチは初期値でSW1に設定されています。SW1を長押しするとタイマーがスタート待機状態になり、再度SW1を押すかスロットルトリガーを操作すると計測がスタートします。

3) SW1を操作するたびにラップタイムが計測されます。SW1を操作してから3秒間はスイッチが動きません。

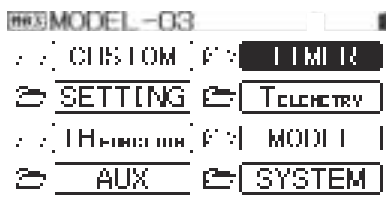
4) 計測終了

SW1を長押しすると計測が終了します。

※LAP TIMER画面で計測したラップ タイマーを確認することができます。LAP TIMER画面でラップ タイマーが動作/停止している状態でエンター操作をおこなうとラップタイム表示に切り替わります。マルチセクターの操作で各ラップタイムを確認できます。(SETUP画面では不可)

※タイマーを動作させた状態でパワースwitchをOFFにするとタイマーがリセットされます。

※SW1/SW2にタイマーが設定されている場合には、タイマー設定画面以外でも長押しすることでスタート待機状態になります。



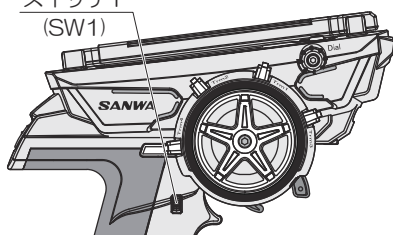
ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



スイッチ1 (SW1)



各機能の使用法

インターバルタイマー [INT TIMER]

タイマー/TIMER

●走行時に設定したタイムでアラームを動作させ、目標タイムの目安とします。

- 1) マルチセクターで[TIMER]を選択し、エンター操作で決定します。
- 2) タイプの設定(TYPE)
セレクトボタンを操作して[TYPE]で[INT]を選択します。
- 3) インターバルの設定(INTERVAL)
インターバルタイマーの設定は[INTERVAL]でおこなってください。
- 4) インターバルタイマーのスタート
タイマーのスイッチは初期値でSW1に設定されています。
SW1を長押しするとタイマーがスタート待機状態になり、
再度SW1を押すかスロットルトリガーを操作すると計測が
スタートします。

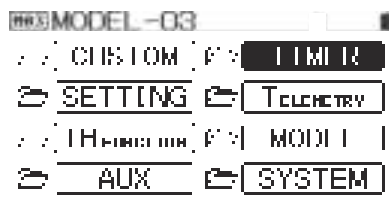
5) SW1を操作するたびにインターバルタイマーがリセットされます。

6) 計測終了

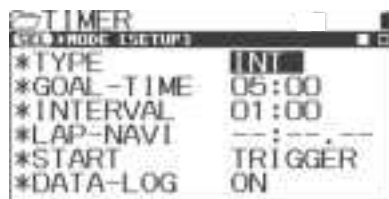
SW1を長押しすると計測が終了します。

※タイマーを動作させた状態でパワースイッチをOFFにすると
タイマーがリセットされます。

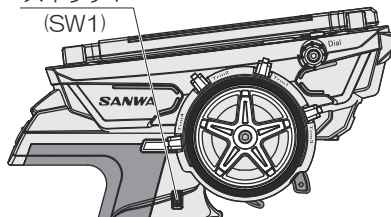
※SW1/SW2にタイマーが設定されている場合には、タイマー
設定画面以外でも長押しすることでスタート待機状態になります。



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



スイッチ1
(SW1)



ダウン タイマー [DOWN TIMER]

タイマー/TIMER

●電動RCカーの走行時間やエンジンRCカーでの燃費計算の目安になります。

●99:59まで1秒単位で設定できます。

●ダウンタイマー終了後にアップタイマーに切り替わり、
終了後の経過時間が確認できます。

- 1) マルチセクターで[TIMER]を選択し、
エンター操作で決定します。
- 2) タイプの設定(TYPE)
セレクトボタンを操作して[TYPE]で[DOWN]を選択します。
※ダウンタイマーの設定はSETUPの[GOAL-TIME]で
おこなってください。
- 3) ダウンタイマーのスタート
タイマーのスイッチは初期値でSW1に設定されています。
SW1を長押しするとタイマーがスタート待機状態になり、
再度SW1を押すかスロットルトリガーを操作すると
計測がスタートします。

4) SW1を操作するたびにダウンタイマーがリセットされます。

5) 計測終了

SW1を長押しすると計測が終了します。

※タイマーを動作させた状態でパワースイッチをOFFにすると
タイマーがリセットされます。

※SW1にタイマーが設定されている場合には、タイマー設定画面
以外でも長押しすることでスタート待機状態になります。



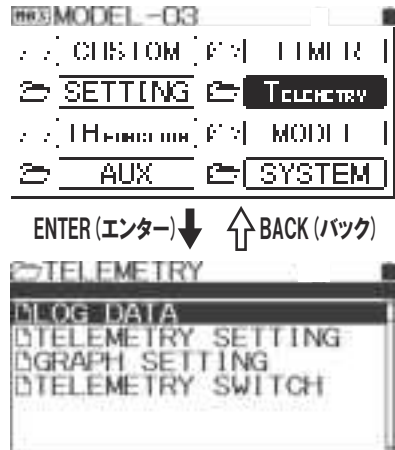
ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



テレメトリー/TELEMETRY

- テレメトリーに関連するLOG DATA、TELEMETRY SETTING、GRAPH SETTING、TELEMETRY SWITCHを設定するメニューです。
- テレメトリー機能を使用するには、対応する受信機やセンサー類、SUPER VORTEXシリーズやSV-PLUSシリーズを使用することで対応可能になります。
- テレメトリーでは温度2系統、バッテリー電圧、回転数のデータが送信機で確認できます。

- ・LOG DATA：記録しているログデータを管理するメニューです。
- ・TELEMETRY SETTING：テレメトリー機能の各種設定
- ・GRAPH SETTING：グラフ表示する際の設定。
- ・TELEMETRY SWITCH：テレメトリーデータを元に動作させるスイッチの各種設定



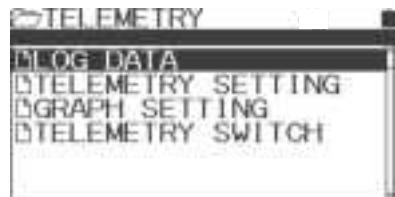
ログ データ [LOG DATA]

テレメトリー/TELEMETRY

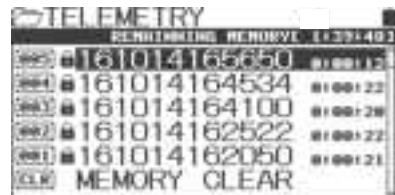
- 記録したログデータを読み込んでグラフ化したり、マイクロSDカードに保存、ログ データ消去など、ログ データを管理する機能です。

- 1) マルチセクターで[LOGGER]を選択し、エンター操作で決定します。
- 2) [LOG DATA]を選択してエンター操作で決定します。
- 3) 保存されているログ データをマルチセクターで選択します。エンター操作するとメニューが表示されますので、メニューを選択し、エンター操作で決定します。

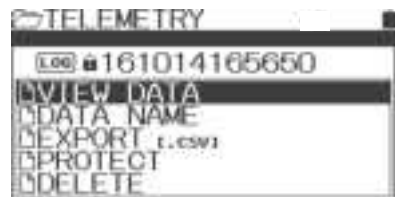
- ・VIEW DATA：記録したログ データを読み込みグラフ化。
- ・DATA NAME：ログ データのファイル名の編集。
- ・EXPORT [CSV]：CSV形式に変換してマイクロSDへ保存。
- ・PROTECT：ログデータをプロテクトして保護。
- ・DELETE：ログデータを消去します。



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



各機能の使用法

ビュー データ [VIEW DATA]

●記録したログデータを読み込んでグラフ化するメニューです。

- 1) マルチセクターで[LOG DATA]を選択し、エンター操作で決定します。
- 2) グラフ化するログデータを選択し、エンター操作で決定します。
- 3) ログデータを選択するとメニューが表示されますので、[VIEW DATA]を選択するとログデータがグラフ化されて表示されます。

- 4) 表示サイズの設定
グラフ表示されている際にエンター操作をおこなうと表示するサイズの設定になります。

○設定範囲 1/1(8.5s/PAGE) : 1ページ/8.5秒
1/2(17s/PAGE) : 1ページ/17秒
1/4(34s/PAGE) : 1ページ/34秒
1/8(68s/PAGE) : 1ページ/68秒

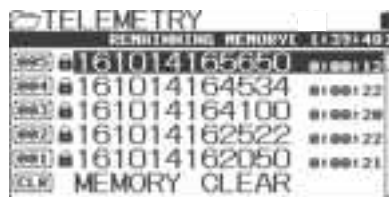
○初期値 1/1(8.5s/PAGE)

- 5) ページの移動方法
グラフ化されている際にセレクトボタンを操作すると表示ページの移動方法が設定できます。

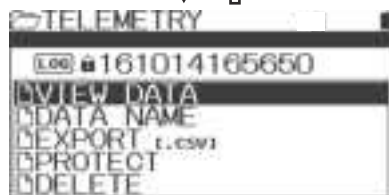
○設定範囲 カーソル/ページ/ラップ

○初期値 カーソル

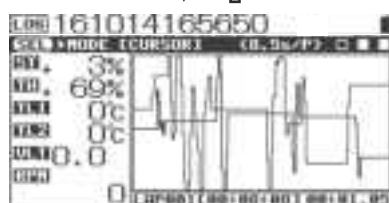
※グラフ化されている画面でエンター操作をするとラップリストへ移動します。



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



データ ネーム [DATA NAME]

- 選択しているログデータのファイル名を変更する機能です。
- ファイル名に使用できるのはアルファベットと記号になります。

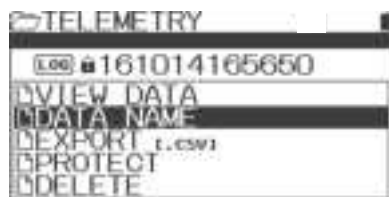
- 1) マルチセクターで[LOG DATA]を選択し、エンター操作で決定します。
- 2) ファイル名を変更するログデータを選択し、エンター操作で決定します。
- 3) データネームの設定
マルチセクターでカーソル“ ”を文字入力する位置に移動します。位置が決定したらエンター操作でカーソル位置を決定します。

※カーソル位置を決定すると入力文字の選択へ移行します。

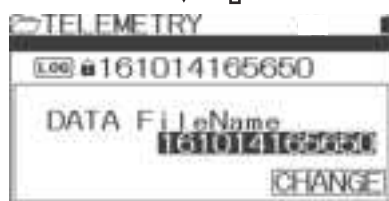
- 4) 入力する文字の決定
マルチセクターで入力する文字を選択します。入力する文字が決定したらエンター操作で入力します。

○設定範囲 A~Z, 0~9

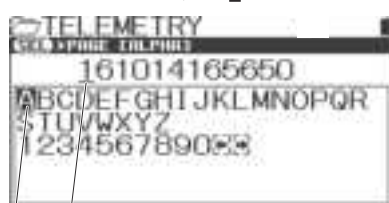
※選択した文字を変更する場合や、文字入力のカーソルを移動する場合はバックボタンを押して動作をキャンセルしてください。



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



文字位置カーソル(カーソル移動時は点滅)

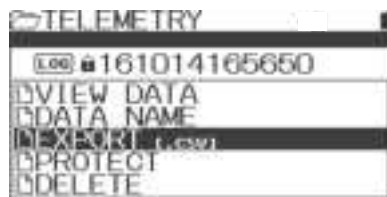
入力文字選択カーソル

エクスポート [EXPORT (.CSV)]

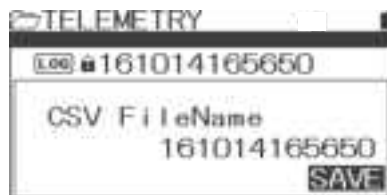
テレメトリー/TELEMETRY

- 選択しているログ データをPC(パーソナルコンピュータ)の表計算ソフト等でグラフ化できるように変換する機能です。
- エクスポートの機能で変換したデータは送信機ではグラフ化できなくなりますのでご注意ください。
- エクスポート機能を使用する場合はマイクロSDカードが必要です。

- 1) マルチセクターで[LOG DATA]を選択し、エンター操作で決定します。
- 2) エクスポートするログ データを選択し、エンター操作で決定します。
※エンター操作するとCSVファイル ネーム(ファイル名変更)へ移行します。
- 3) CSVファイル ネームの設定
形式を変換する際にだファイル名の変更も可能です。
文字入力はデータ ネームのやり方と同一ですので、そちらを参照してください。
- 4) CSVファイル形式への変換
カーソルを[SAVE]へ移動し、エンター操作をおこなって変換してください。
※データ変換中にバック操作で変換作業のキャンセルが可能です。
※データ変換後はマイクロSDカード経由でPCへデータを移動し、グラフ表示をおこなってください。



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



ENTER (エンター) ↓



プロテクト [PROTECT]

テレメトリー/TELEMETRY

- ログ データを誤って消去したりしないようにプロテクト(保護)する機能です。

- 1) マルチセクターで[LOG DATA]を選択し、エンター操作で決定します。
- 2) プロテクトするログ データを選択し、エンター操作で決定します。
※エンター操作のたびにプロテクトの有効/無効が切り替わります。



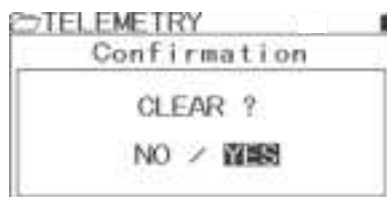
プロテクトマーク

デリート [DELETE]

テレメトリー/TELEMETRY

- ログ データを消去する機能です。
- プロテクトされているログ データはデリートできません。

- 1) マルチセクターで[LOG DATA]を選択し、エンター操作で決定します。
- 2) デリートするログ データを選択し、エンター操作で決定します。
確認画面が表示されますので、画面表示にしたがって操作してください。



各機能の使用法

テレメトリー/TELEMETRY

テレメトリー セットアップ [TELEMETRY SETTING]

テレメトリー/TELEMETRY

●テレメトリー各機能の設定をおこないます。設定する機能はセレクト ボタンで選択します。

- ・TLM1/TLM2：温度/スピードのテレメトリーデータの設定
 [NAME] TLM1/TLM2のデータ名称を3文字まで変更可能です。
 [UNIT] 温度の設定とスピード表示の切り替え
 (°C/°F/KM[スピードの単位は変更可能])
 [MAX] データをグラフ表示した際のグラフ上限値の設定
 [ALERT] 設定した温度でアラームを動作させます。
 ※アラームOFFも設定可能です。
 (※スピード表示の場合は設定できません)
 [MIN] データをグラフ表示した際のグラフ下限値の設定

- ・RPM：回転数データと回転数データから算出したスピードの設定
 [UNIT] 回転数とスピード表示の切り替え (RPM, km/h, mph)
 [MAX SCALE] データをグラフ表示した際のグラフ上限値の設定

- ・RATIO：RATIO(レシオ)回転センサーを減算された位置に設置した場合に、レシオの設定をおこなうことで、モーターやエンジンの回転数を逆算して表示させることができます。

○設定範囲 0.001~64.999

○初期設定 1.000

- ・10COUNT DIST：[10カウント ディスタンス]スピード表示に設定したときに回転センサーが10回検知した移動距離を計測し、その値を設定することでスピードを計算して表示します。

○設定範囲 1cm~255cm

○初期設定 30cm

- ・VOLT：テレメトリー データにあわせて、設定した電圧でアラームが動作し、LEDも点滅します。

[MAX VOLT] グラフ表示の際の最大電圧の設定

○設定範囲 3.0V~9.0V、OFF

○初期設定 8.4V

[ALERT VOLT] アラーム動作電圧の設定

○設定範囲 OFF/3.0V~9.0V

○初期設定 3.8V

[HOLD TIME] ホールド タイムの設定

※HOLD TIMEを設定することで、スロットル操作等の瞬間的な電圧低下にアラームを動作させないようにする機能です。

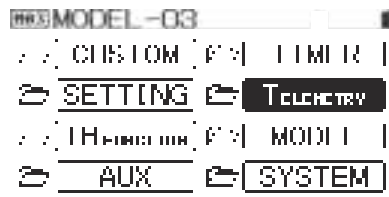
○設定範囲 0.0sec~5.0sec

○初期設定 1.0sec

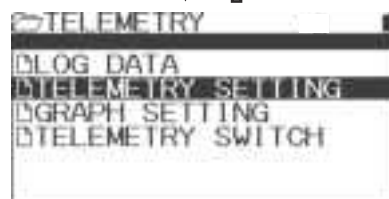
[MIN VOLT] グラフ表示の際の最低電圧の設定

○設定範囲 0.0V~8.9V

○初期設定 3.0V



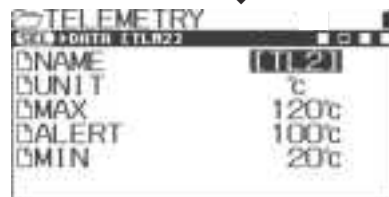
ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



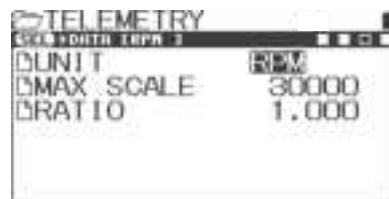
ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



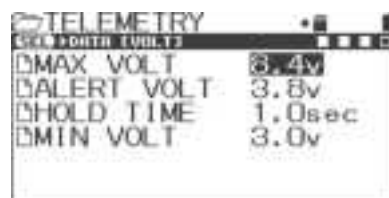
セレクトボタン ↓



セレクトボタン ↓



セレクトボタン ↓



グラフ セットィング [GRAPH SETTING]

テレメトリー/TELEMETRY

●テレメトリーデータをグラフ表示する際に、グラフ表示する3項目を選択する機能です。

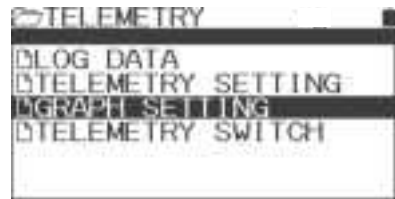
- 1) マルチセクターで[テレメトリー]を選択し、エンターボタンで決定します。
- 2) GRAPH SETTINGの設定
マルチセクターで[GRAPH SETTING]を選択してエンターボタンで決定します。

○設定範囲 TL1/TL2/RPM/VOLT/ST/TH
TL1/2: テレメトリー データ
RPM: 回転数データ
VOLT: 受信機入力電圧

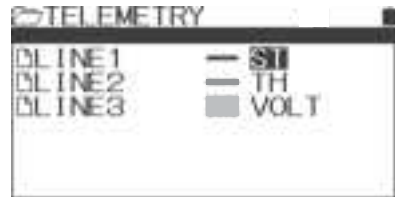
※TL1/TL2は表示名を変更することが可能です。

○初期値 LINE1: ST(ステアリングデータ)
LINE2: TH(スロットルデータ)
LINE3: VOLT(受信機入力電圧)

※グラフではLINE1はブラック、LINE2はダークグレー、LINE3はライトグレーで表示されます。



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



テレメトリー スイッチ [TELEMETRY SWITCH]

テレメトリー/TELEMETRY

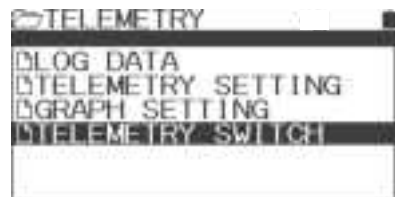
●テレメトリーデータの変化をもとにそのデータでスイッチを動作させることができる機能です。

- ・ TRIGGER(トリガー): スイッチ動作のもととなるデータの選択をします。
- ・ BORDER(ボーダー): 温度や電圧など動作の基準の設定になります。
- ・ FUNCTION(ファンクション): 動作を割り当てます。

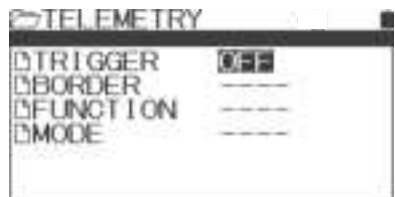
- 1) マルチセクターで[テレメトリー]を選択し、エンターボタンで決定します。
- 2) TELEMETRY SWITCHの設定
マルチセクターで[TELEMETRY SWITCH]を選択してエンターボタンで決定します。

○設定範囲 TRIGGER: OFF/TL1/TL2/VOLT
BORDER: 温度設定の場合 0~150℃
電圧設定の場合 3.0~9.0V
FUNCTION: TIMER ON/OFF
RACING MODE
TH RATE
MODE: TOGGLE/ONE SHOT

○初期値 TRIGGER: OFF
BORDER: ---- (OFF)
FUNCTION: ---- (OFF)
MODE: ---- (OFF)



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



各機能の使用法

モデルメニュー

モデル/MODEL

- モデル セレクト、モデル ネーム、モデル コピー、モデル クリアについての機能が設定できます。
- 大容量EEPROMを内蔵しており、M01～M20の20モデル分のデータを記憶することができます。

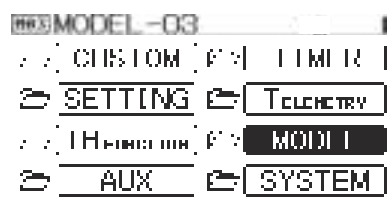
モデル セレクト[MODEL SELECT]

- 記憶されているM01～M20のモデル データを簡単に呼び出すことができます。

- 1) マルチセクターで[MODEL]を選択し、
エンター操作で決定します。
- 2) モデル セレクトの設定(MODEL SELECT)
マルチセクターで[MODEL SELECT]を
選択してエンター操作で決定します。
- 3) モデルの選択
マルチセクターで呼び出したいモデルを
選択します。

○設定範囲 M01～M20

- 4) 呼び出すモデルにカーソルを移動し、
エンター操作をおこなうと画面上に
メッセージが表示されますので、
表示にしたがって操作してモデル
セレクトをおこなってください。



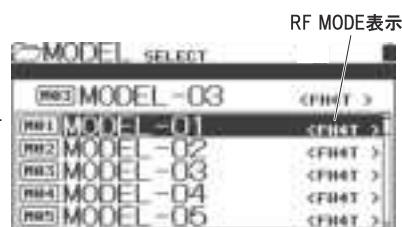
ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)

①モデル 画面



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)

②MODEL SELECT
画面



ENTER (エンター) ↓ ↓ BACK (バック)
モデルセレクト完了 ①モデル画面へ

補足

- MT-44はダイレクト モデル セレクトの機能を装備しています。
バック ボタンを押しながら送信機のパワースイッチをONすると、
MODEL SELECT画面からスタートしますので使用するモデルを
簡単に呼び出すことができます。(P.16)

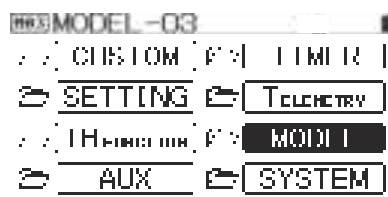
モデル ネーム[MODEL NAME]

●各モデルにアルファベット、数字、カナ、記号を12文字までモデル ネームを登録できます。

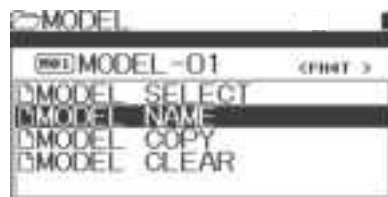
- 1) マルチセクターで[モデル]を選択し、エンター操作で決定します。
 - 2) モデル ネームの設定(MODEL NAME)
マルチセクターで[モデル ネーム]を選択してエンター操作で決定します。
 - 3) モデル ネームの設定
マルチセクターでカーソル“ ”を文字入力する位置に移動します。位置が決定したらエンターキーを押してカーソル位置を決定します。
 - 4) マルチセクターで入力する文字を選択します。
入力する文字が決定したらエンター操作で入力します。
アルファベット/小文字/記号/カタカナの切り替えはセレクトボタンの操作でおこないます。
- ※選択した文字を変更する場合や文字入力位置のカーソルを移動する場合はバックボタンを押して動作をキャンセルしてください。

○設定範囲 A～Z, a～z, 0～9, ア～ン、ア～ツ、記号、スペース

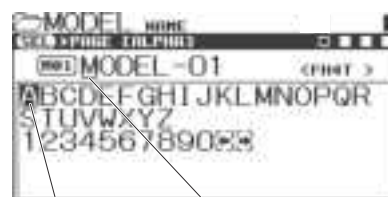
- 5) 3)、4)を繰り返して文字を入力します。



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



入力文字選択カーソル
文字位置カーソル(カーソル移動時は点滅)

アルファベット小文字



記号



カタカナ



各機能の使用法

モデルメニュー

モデル/MODEL

- モデル セレクト、モデル ネーム、モデル コピー、モデル クリアについての機能が設定できます。
- 大容量EEPROMを内蔵しており、M01～M20の20モデル分のデータを記憶することができます。

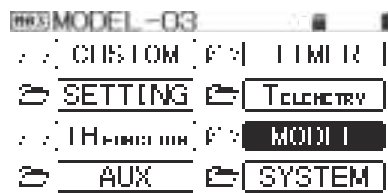
モデル コピー[MODEL COPY]

- 選択しているモデルのデータを他のモデルにコピーすることができます。

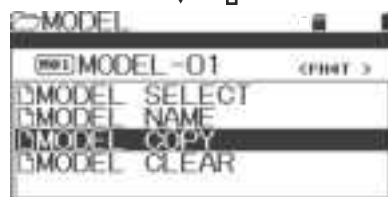
- 1) マルチセクターで[モデル]を選択し、エンター操作で決定します。
- 2) モデル コピーの設定(MODEL COPY) マルチセクターで[MODEL COPY]を選択してエンター操作で決定します。
- 3) コピー先モデルの選択
マルチセクターでコピー先モデルを選択します。
※コピー元モデルも選択可能です。
※コピー元、コピー先モデルはマイクロSDカードも選択可能です。コピー元にマイクロSDカードを選択した場合には、マイクロSDカード内にモデルデータが無い場合にはコピーできません。
- 4) エンター操作をおこなうと画面上にメッセージが表示されますので、表示にしたがって操作してモデル コピーをおこなってください。

- モデル コピーのモードについて
 - ・FULL (フル)
モデルデータ内のすべての設定がコピーされます。
 - ・SYSTEM(システム)
モデルデータのSYSTEMの内容を選択してコピー
 - ・MODEL(モデル)
モデルデータ内のセッティング、THファンクションAUXの設定値のみのコピー

となります。
用途にあわせてモデル コピーのモードを選択してください。



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)

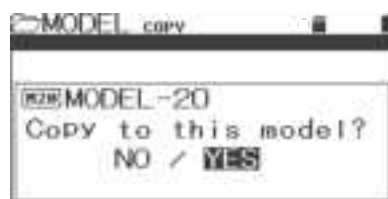


ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



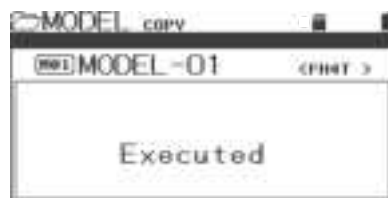
①コピー先選択

コピー先モデル



②コピー確認画面

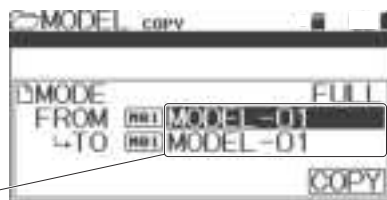
ENTER (エンター) ↓
 ・NO →①に戻る
 ・YES→③に移行 (コピー実行)



③コピー中

・コピー後①に戻る

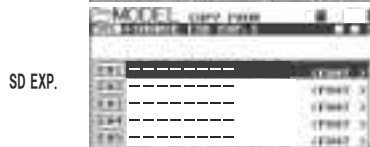
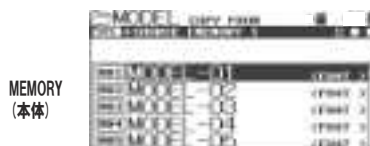
- マイクロSDカードからのコピーについて
モデルコピーの際にコピー元とコピー先の指定を
本体メモリーとマイクロSDカードが選択できます。
コピー先選択の画面でモデルを選択した際に
セレクトボタンの操作によって選択することが可能です。 エンター操作



- 1) モデルを選択するとコピー元とコピー先の指定が
本体メモリー以外も選択可能になります。
セレクトボタンの操作によって切り替わります。

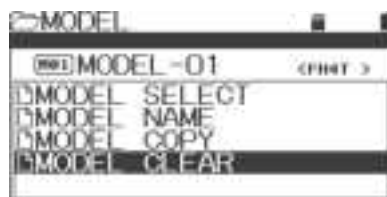
- ・MEMORY(本体メモリー)：20メモリー
- ・SD CARD(マイクロSDカード)：250メモリー
- ・SD EXP.(マイクロSD EXP.)：20メモリー

※SD EXP. はテンプレートデータなどのデータをコピーします。
弊社HPからテンプレートデータをダウンロードして使用してください。

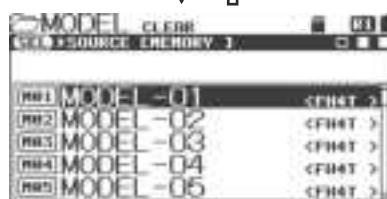


モデル クリア[MODEL CLEAR]

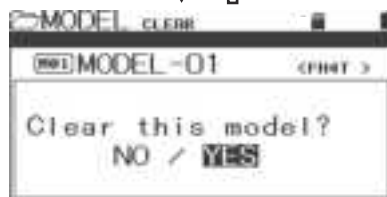
- モデルの設定データをクリア(初期化)する機能です。
- 1) マルチセクターで[MODEL]を選択し、
エンター操作で決定します。
 - 2) モデル クリアの設定(MODEL CLEAR)
マルチセクターで[MODEL CLEAR]を
選択してエンター操作で決定します。
 - 3) モデル クリアをおこなうモデルデータを選択します。
セレクトボタンを操作することで本体メモリー、マイクロSD内
のモデルデータも選択できます。
 - 4) エンター操作をおこなうと画面上にメッセージが
表示されますので、表示にしたがってモデル クリア
をおこなってください。



ENTER(エンター) ↓ ↑ BACK(バック)



ENTER(エンター) ↓ ↑ BACK(バック)



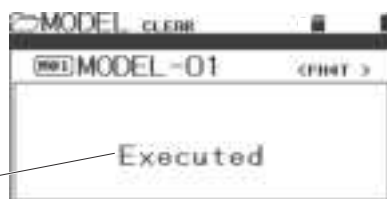
・NO →MODEL画面に戻る
・YES→クリア実行 ②へ

①確認画面

- モデル クリアのモードについて
- ・FULL(フル)
モデルデータ内のすべての設定がクリアされます。
- ・SYSTEM(システム)
モデルデータのSYSTEMの内容を選択してクリア
- ・MODEL(モデル)
モデルデータ内のセッティング、THファンクション
AUXの設定値のみクリア

となります。
用途にあわせて選択してください。

②クリア処理中



2回点滅表示後
<モデル>画面に戻る

各機能の使用法

システム メニュー

システム/SYSTEM

● バインド(BIND)、キー アサイン(KEY ASSING)、BUZZER(ブザー)、バッテリー(BATTERY)、LCD(エル シー ディー)、CALIBRATION(キャリブレーション)など、送信機のシステム設定をおこなう機能です。

バインド[BIND]

● 使用する受信機にあわせた出力方式の選択や、使用するサーボ(アナログ/デジタル)やスピードコントローラーにあわせてモードの設定や送信機と受信機のバインドをおこないます。

- 1) マルチセクターで[SYSTEM]を選択し、エンター操作で決定します。
- 2) マルチセクターで[BIND]を選択してエンター操作で決定します。
- 3) RF MODEの設定(RF MODE：電波の出力方式)
マルチセクターで出力方式を設定します。

○ 出力方式

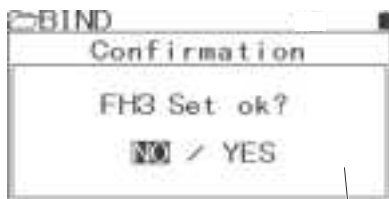
・ FH4T

RX-482, RX-481, RX-472, RX-471, RX-47T,
RX-462, RX-461, SV-PLUSシリーズ用モード

・ FH3

RX-451R, RX-451, RX-381, RX-380用モード

○ 初期値 FH4T



確認画面

※ 出力方式を変更すると画面上にメッセージが表示されますので、表示にしたがって操作してください。

- 4) TELEMETRY(テレメトリー)の設定
マルチセクターでTELEMETRY(テレメトリー)を設定します。

○ 設定範囲 ON/OFF

○ 初期値 ON

※ テレメトリー使用可能機器

・ RX-482, RX-472, RX-47T, RX-462, RX-461, SV-PLUSシリーズ

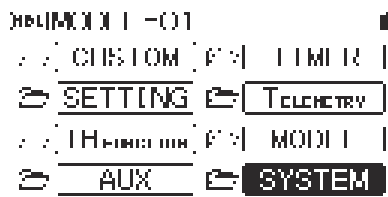
※ 設定変更しても再BIND(バインド)の必要はありません。

- 5) SAFETY LINK(セーフティー リンク)の設定
マルチセクターでSAFETY LINK(セーフティー リンク)を設定します。

○ 設定範囲 01~50

○ 初期値 01

※ BINDしたあとでSAEFTY LINKの設定を変更した場合には再度BINDをおこなってください。



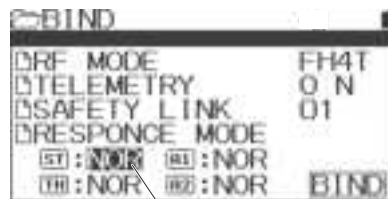
ENTER(エンター) ↓ ↑ BACK(バック)



ENTER(エンター) ↓ ↑ BACK(バック)



出力方式



レスポンス モード

補足

- モデル セレクト間違いによる暴走などを防止する機能です。モデルごとにLINK No.を設定できます。
- モデル コピー(FULL)をおこなうとLINK No.もコピーされます。
- 初期値は[01]に設定されています。LINK No.を変更しない場合にはBINDされた受信機はすべてのモデルで動作します。
- セーフティー リンクは[FH4T]のみで有効な機能です。

6) チャンネル モードの設定

- アップキー/ダウンキーで各チャンネルのレスポンス モードを設定します。
- レスポンス モードはチャンネルごとに設定できます。

○設定範囲 NOR(ノーマル)
SHR(ハイレスポンス)
SSR(スーパーレスポンス)

○初期値 NOR

※SSRのレスポンス モードはFH4T設定時のみ表示されます。

重要

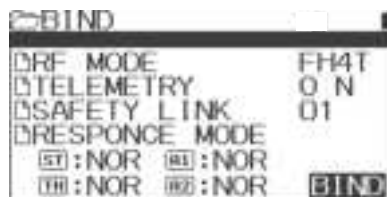
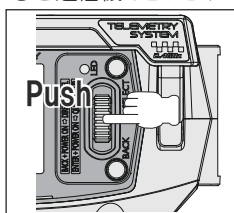
- SHR/SSRモードではアナログサーボは動作しませんのでご注意ください。誤ってSHR/SSRモードでアナログサーボを使用すると正常に動作せずサーボが壊れますので、絶対にSHR/SSRモードでアナログサーボを使用しないでください。
- デジタルサーボ(SRG、ERB、ERSシリーズ、Digital ERGシリーズ)の場合はNOR/SHRモードのどちらでも動作します。
- SSRモードはSRGサーボ、SUPER VORTEX/SV-PLUSシリーズ、HV-12 STOCK SPECIAL、HV-01のみ動作します。
- MT-44はRX-451Rを使用してSHRの表示でBINDしてもSSRモードにはなりません。表示通りの動作になります。
- SHR/SSRモードではBL-RACER、BL-FORCE、F2000、F2200、F3000、F3300、SBL-01、02、03CLは動作しません。必ずNORモードでご使用ください。
- SV-08、HV-10、HV-12、F2500はNOR/SHRモードで動作します。

7) BIND(バインド)の設定

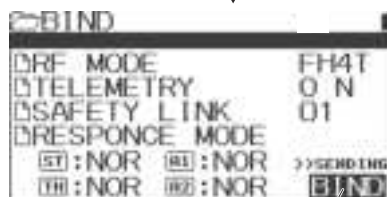
- BIND(バインド)とは：MT-S送信機はそれぞれ固有のID(個体識別)番号をもっていて、そのID番号を受信機に記憶させることです。バインドした送信機と受信機のセットでしか動作しません。

1] BIND(バインド)メニュー内の設定が終了したら
マルチセクターによりBIND設定をおこないます。

2] BINDメニュー内の[ENTER]にカーソルを移動して
エンター操作すると送信機がBIND(バインド)動作になります。

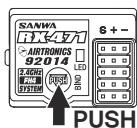


ENTER (エンター) ↓



点滅

3] 受信機のBINDボタンを押しながら、受信機の電源スイッチをONします。



PUSH !

受信機のBIND
ボタンを押し
ながら



電源スイッチON !

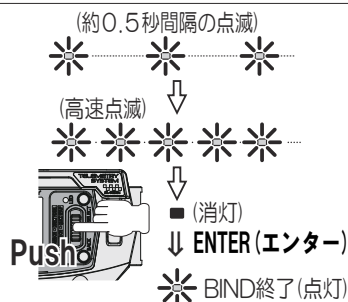
注) 上記の受信機には配線が接続されていませんが、BINDする際には、サーボやFETスピードコントローラー(モーターは除く)、バッテリーを接続した状態でおこなってください。

受信機/FETスピード
コントローラーの電源
スイッチをONします。

4] BIND(バインド)が正しくおこなわれると、受信機のLEDがゆっくりとした点滅から高速点滅になりLEDが消灯します。受信機のLEDが消灯したら送信機のエンターキーを操作して送信機のBIND動作を終了させてください。BINDが正しくおこなわれると受信機LEDが点灯します。受信機LEDが点灯したらサーボ等を動作させてBINDが終了したことを確認してください。

※BIND(バインド)が正しくおこなえない場合には、2]の作業からやりなおしてください。

受信機LEDの状態



注意

- 出荷時にはBINDされていません。ご使用になる前に必ずBINDをおこなってください。
- 新たに受信機を購入された場合は、必ず送信機と新しい受信機でBINDをおこなってください。
- 必ずBINDした送信機と受信機のセットでお使いください。
- RX-451、RX-451R、RX-381、RX-380をBINDする場合はRF MODE(出力方式)をFH3に設定してBINDしてください。
- 受信機の種類とMODULATIONの設定を間違えるとBIND設定をおこなえませんので、ご注意ください。
- BINDしたあとにBINDメニュー内の設定を変更した場合は再度BINDをおこなってください。
- RX-481とRX-471はFH4T、FH3のどちらでも動作しますが受信機本来の性能を発揮させるため、FH4Tで使用してください。
- BIND(バインド)してからチャンネルのモード設定(NOR/SHR/SSR)の設定を変更した場合には再度BIND(バインド)をおこなってください。再バインドしないと設定変更が反映されません。

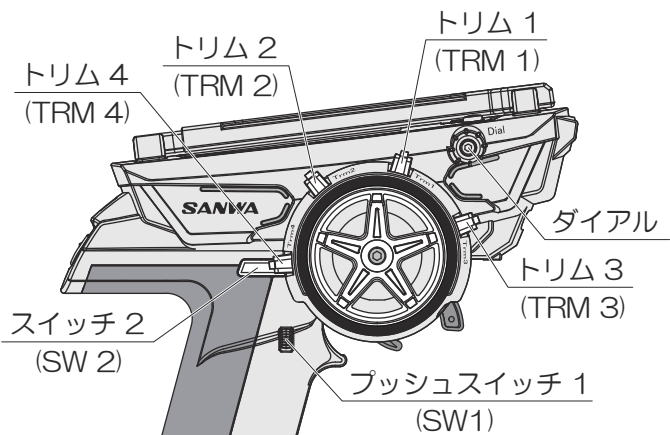
各機能の使用法

システム メニュー

システム/SYSTEM

● バインド(BIND)、キー アサイン(KEY ASSING)、BUZZER(ブザー)、バッテリー(BATTERY)、LCD(エル シー ディー)、VR ADJUST(ボリューム アジャスト)など、送信機のシステム設定をおこなう機能です。

スイッチ及びトリムの位置



工場出荷時にスイッチとトリムに割り当てられている機能

- TR1 : ステアリング トリム (TRM-ST)
- TR2 : スロットル トリム (TRM-TH)
- TR3 : デュアルレート ST (D/R-ST)
- TR4 : デュアルレート BR (D/R-BR)
- SW1 : タイマー (TIMER)
- SW2 : カスタム (CUSTOM)

キー アサイン スイッチ [KEY ASSIGN SW]

● 送信機のスイッチ (SW1、SW2、SW3) に機能を割り当てることができ、走行中に機能の ON/OFF、ができます。

- 1) マルチセクターで [システム] を選択し、エンター操作で決定します。
- 2) マルチセクターで [KEY ASSIGN] を選択してエンター操作で決定します。
- 3) スイッチの設定 (SW1/SW2)
[SW] でエンター操作をおこない、スイッチに割り当てる機能をアップキー/ダウンキーで設定します。

○ 設定範囲

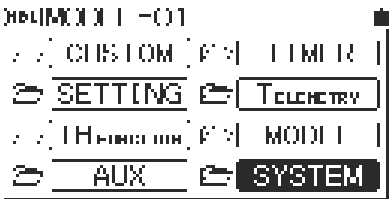
スイッチ	割り当て可能な機能
SW1 SW2	OFF、ASIST-ST、D/R-ST、D/R-TH、D/R-BR、CUR-ST、CUR-TH、SPD-ST、SPD-TH、ALB、OFFSET、AUX1、AUX2、TIMER、TE-CLR、LOGGER、R-MODE、CUSTOM、MAX-CLR

○ 初期値 SW1 : TIMER SW2 : OFF

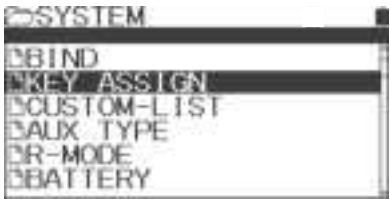
※ SW1/SW2 に [ASIST-ST] を設定することでステアリングに設定できる D/R、SPEED、CURVE の機能を ON/OFF することが可能です。

- 4) モードの設定
スイッチの動作を設定しますが割り当てる機能によっては設定出来ない場合があります。

○ 設定範囲 TOGGLE (押すたびに ON/OFF 切り替え)
PUSH (押し続けているあいだのみ ON)



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



キー アサイン トリム[KEY ASSIGN TRIM]

- 各機能の設定値をトリム1～トリム4で変更できます。
- STEPの設定で1回のトリム操作での変化幅の設定とREVの設定で動作方向も変更できます。

- 1) マルチセクターで[システム]を選択し、
エンター操作で決定します。
- 2) マルチセクターで[KEY ASSIGN]を選択して
セレクト ボタンで[TRIM]に切り替えて、設定する
項目を選択してエンター操作で決定します。
- 3) トリムの設定(TRM1/TRM2/TRM3/TRM4)
設定変更する[TRIM]を選択して、割り当てる機能を
マルチセクターで設定します。

KEY	FUNCTION	STEP	TRIM
CTR1	: TRM-ST	5	NOR
CTR2	: TRM-TH	5	NOR
CTR3	: D/R-ST	1	NOR
CTR4	: D/R-BR	1	NOR
DIAL	: OFF	---	---

○設定範囲

トリム	割り当て可能な機能
TRIM1	OFF, TRIM-ST, TRM-TH, TRIM-A1, TRIM-A2, D/R-ST, D/R-TH, D/R-BR, CU-R-ST, CU-R-TH, CU-R-BR, SP-ST-F, SP-ST-R, SP-TH-F, SP-TH-R, ALB-PO, ALB-ST, ALB-LG, ALB-CY, OFFSET, AUX1, AUX1(CODE1~10), AUX2, AUX2(CODE1~10)
TRIM2	
TRIM3	
TRIM4	

- 初期値 TR1 : TRM-ST(ステアリング トリム)
TR2 : TRM-TH(スロットル トリム)
TR3 : D/R-ST(ステアリング デュアル レート)
TR4 : D/R-BR(ブレーキ デュアル レート)

- 4) ステップの設定(STEP)
1回のトリム操作で動作する変化量を設定します。
マルチセクターで[STEP]を選択してエンター操作で
決定して変化量を設定します。

○設定範囲 1～100

○初期値 5

- 5) 動作方向の設定
トリムを操作した際の動作方向の設定をします。
マルチセクターで[REV]を選択してエンター操作で
決定して動作方向を設定します。

○設定範囲 NOR/REV

○初期値 NOR

各機能の使用法

システム メニュー

システム/SYSTEM

カスタム リスト[CUSTOM-LIST]

- 良く使用するメニューをカスタム リストに設定することで、好みのメニュー構築が可能になります。
カスタム リストはモデルメモリーごとに作成可能で、4ページ分のリストを作成できます。
- カスタム リストで設定したメニューは、カスタムで使用可能になります。

- 1) マルチセクターで[SYSTEM]を選択し、エンター操作で決定します。
- 2) マルチセクターで[CUSTOM-LIST]を選択してエンター操作で決定します。
- 3) カスタム リストの設定
マルチセクターを操作して、チャンネル/機能/項目の設定をおこないます。
1ページに6個の機能を割り当てられて、4ページ分の設定が可能です。

CUSTOM-LIST		
SEL: CH01	SEL: E11	SEL: 100%
SEL: D/R	RATE	100%
SEL: BASE	SUB-T	0
SEL: BASE	EPA-L	100%
SEL: BASE	EPA-R	100%
SEL: BASE	REV	NOR

チャンネル選択

機能選択

項目選択

ページ選択
(セレクトボタン)

※カスタムリストはタイプにあわせてあらかじめ設定されています。好みにあわせてカスタム リストをカスタマイズしてください。

※機能/項目によってはカスタム リストに設定できない物もありますのでご注意ください。

MODEL -01	
CUSTOM	TIMER
SETTING	TELEMETRY
THFUNCTION	MODEL
AUX	SYSTEM

ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)

SYSTEM	
DBIND	
KEY ASSIGN	
CUSTOM-LIST	
AUX TYPE	
DR-MODE	
OBATTERY	

ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)

CUSTOM-LIST		
SEL: CH01	SEL: E11	SEL: 100%
SEL: D/R	RATE	100%
SEL: BASE	SUB-T	0
SEL: BASE	EPA-L	100%
SEL: BASE	EPA-R	100%
SEL: BASE	REV	NOR

カスタム リスト設定 ↓

CUSTOM-LIST		
SEL: CH01	SEL: E11	SEL: 100%
SEL: D/R	RATE	100%
SEL: BASE	EPA-L	100%
SEL: BASE	EPA-R	100%
SEL: SPEED	FORWARD	0
SEL: SPEED	RETURN	0
SEL: BASE	SUB-T	0

MODEL -01	
CUSTOM	TIMER
SETTING	LOGGER
THFUNCTION	MODEL
AUX	SYSTEM

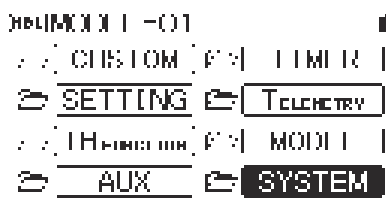
ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)

CUSTOM		
SEL: CH01	SEL: E11	SEL: 100%
SEL: D/R	RATE	100%
SEL: BASE	EPA-L	100%
SEL: BASE	EPA-R	100%
SEL: SPEED	FORWARD	0
SEL: SPEED	RETURN	0
SEL: BASE	SUB-T	0

エーユーエックス タイプ[AUX TYPE]

●AUX1、AUX2(3ch、4ch)の動作を設定する機能です。

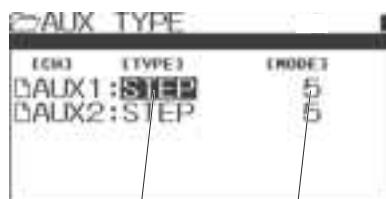
- 1) マルチセクターで[SYSTEM]を選択し、
エンター操作で決定します。
- 2) マルチセクターで[AUX TYPE]を選択して
エンター操作で決定します。
- 3) マルチセクターでAUX TYPEの設定をおこないます。



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



タイプ切り替え

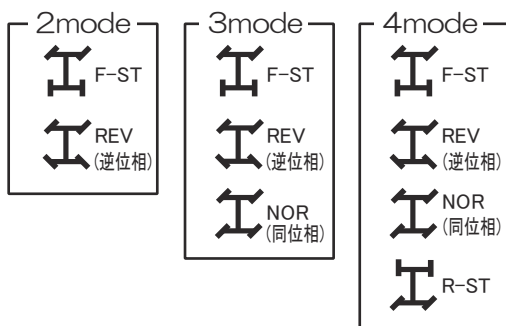
モード設定

○設定項目

TYPE	MODE
STEP	1/2/5/10/20/25/50/100
POINT	2/3/4/5/6
4WS	2mode/3mode/4mode
MOA	1/2/5/10/20/25/50/100
AUX MIX	ST-mix/TH-mix
CODE5	USER/SVZ/SVD
CODE10	USER/SV-STK

○初期値 AUX1 : STEP MODE : 5
 AUX2 : STEP MODE : 5

※4WSのモード設定の動作イメージ



※ST-mixはステアリングからAUXにミキシングがかかり、TH-mixはスロットルからAUXにミキシングがかかります。

※AUX TYPEをCODEに設定した場合には対応した機器の設定を送信機から変更できるようになります。

対応している機器はSUPER VORTEX ZEROやSV PLUS ZEROなどのスピードコントローラーやSGS-01C/SGS-01Dになります。

※AUX TYPEの設定をCODEに設定している場合には受信機のAUX1、AUX2(3ch、4ch)に対応機器以外を絶対に接続しないでください。対応していない機器を接続した場合にはその機器が破損します。

※POINT AUXはP.33を、CODE AUXに関してはP.36を参照してください。

※CODE10はSUPER VORTEX Gen2/STOCKに対応した機能です。

※CODE5/CODE10でMODEをUSERに設定すると各項目の名称を自由に登録できます。

各機能の使用法

システム メニュー

システム/SYSTEM

レーシング モード[R-MODE]

- レーシング モードに対応している機能をRCカーや路面コンディションの変化に対応できるようにレーシング モードを切り替えることでRCカーの走行特性を調整する機能です。
- モデルメモリーごとに、レーシング モードに対応している機能を個別にR1/R2の2つの設定値を持たせることが可能で、走行中に割り当てたスイッチでの切り替えが可能になります。
- 初期設定ではR-MODEのON/OFFはスイッチに割り当てられていません。

- 1) マルチセクターにより[SYSTEM]を選択し、エンター操作で確定します。
- 2) マルチセクターで[R-MODE]を選択してエンター操作で確定します。
- 3) マルチセクターでレーシング モードの動作と対応している機能の設定をおこないます。
チャンネル選択はセレクトボタンでおこないます。

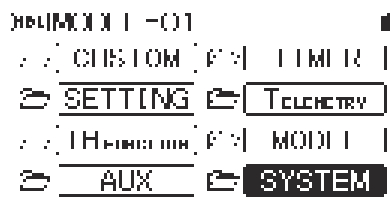
○設定範囲 R-MODE : OFF/2
対応機能 : 各機能 ON/OFF

○初期設定 R-MODE : OFF
対応機能 : 各機能 OFF

○対応機能
・ST/TH : D/R, SPEED, CURVE, TRIM
・AUX : D/R, SPEED, CURVE, TRIM, AUX

- 3) R-MODEの機能をスイッチに設定し、走行中に操作することでレーシング モードの切り替えができます。
アサイン機能でトリムレバーやスイッチに変更が可能です。(P.51, 52)

※SUPER VORTEXの設定変更やタイヤの磨耗、路面コンディションの変化などに合わせて設定してください。



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



チャンネル選択



レーシング モード表示

バッテリー[BATTERY]

- 送信機のバッテリーアラームの電圧設定を変更できます。
- タイプ[DRYx3(乾電池)/Ni-MHx3(ニッケル水素)/Li-Pox1(リチウムポリマー)、CUSTOM(カスタム)]を選択することによってアラーム設定を簡単におこなえます。
- ※タイプでカスタムを選択するとアラームが鳴り始める電圧を設定するALERT VOLTと下限電圧のLIMIT VOLTの設定が可能です。
- TH SLOW(スロットル スロー)は送信機のバッテリー電圧がLIMIT VOLTの電圧になった際にスロットル ハイ側の動作量に制限(50%)をかける機能です。(フェールセーフ機能)

1) マルチセクターで[SYSTEM]を選択し、エンター操作で決定します。

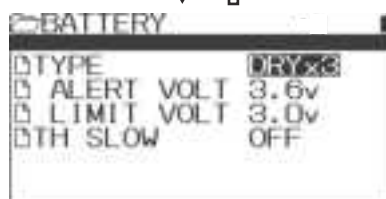
2) マルチセクターで[BATTERY]を選択してエンターキーで決定します。

3) タイプの設定(TYPE)
マルチセクターで使用するバッテリーにあわせてタイプ(TYPE)を設定します。

- 設定範囲 DRYx3(乾電池)
Ni-MHx3(ニッケル水素)
Li-Pox1(リチウムポリマー)
CUSTOM(カスタム) : ALERT VOLT 3.0~5.0v
LIMIT VOLT 2.7~5.0v
- 初期値 DRYx3(乾電池)



ENTER(エンター) ↓ ↑ BACK(バック)



ブザー[BUZZER]

- キー操作やトリム、スイッチの操作音、タイマーのブザー音の音階を設定できます。
- キー操作のみ操作音の前半と後半の設定が可能です。
- 音量は5段階、音階は7種類に設定できます。

1) マルチセクターで[SYSTEM]を選択し、エンター操作で決定します。

2) マルチセクターで[BUZZER]を選択してエンター操作で決定します。

3) トーンとボリュームの設定
セレクトボタンの操作でトーン(音階)とボリューム(音量)の切り替えが可能です。
設定変更する項目を選択して調整します。

- 設定項目 KEY-CLICK
TLM1-ALERT
TLM2-ALERT
VOLT-ALERT
TIMER
INTERVAL
LAP-NAVI

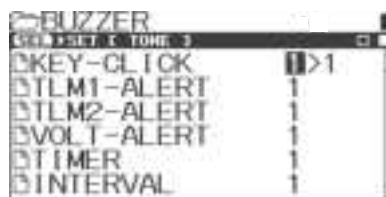
※KEY-CLICKのトーン(音階)は操作音の前半と後半の設定が可能です。

- 設定範囲 TONE 1~7
VOLUME OFF~5

- 初期値 VOLUME 4
TONE 1 [KEY-CLICK 1→1]



ENTER(エンター) ↓ ↑ BACK(バック)



ENTER(エンター) ↓ ↑ BACK(バック)



各機能の使用法

システム メニュー

システム/SYSTEM

エル シー ディー[LCD]

●LCD(液晶)のコントラスト(濃淡)やブライト(明暗)、バックライトの点灯モードが設定できます。

- 1) マルチセクターで[SYSTEM]を選択し、エンター操作で決定します。
- 2) マルチセクターで[LCD]を選択してエンター操作で決定します。

3) LCD(液晶)のコントラスト(濃淡)、ブライト(明暗)、バックライトの点灯モード(点灯時間)を設定します。

※コントラストの調整によっては液晶の表示が見えなくなってしまう場合がありますのでご注意ください。

- 設定項目 CONTRAST(液晶の濃淡)
BRIGHT(液晶の明暗)
LIGHT-MODE(バックライト点灯モード)
LIGHT-TIME(バックライト点灯時間)
- 設定範囲 CONTRAST : 0~30
BRIGHT : 0~10
LIGHT-MODE : OFF/KEY-ON/ALWAYS
LIGHT-TIME : 1~30sec
- 初期値 CONTRAST : 10
BRIGHT : 5
LIGHT-MODE : KEY-ON
LIGHT-TIME : 10sec



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)

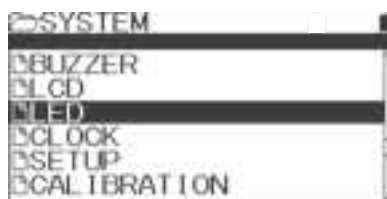


エル イー ディー[LED]

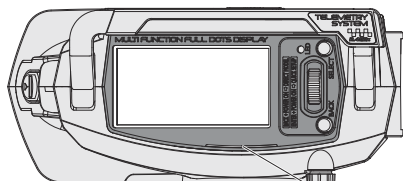
●送信機本体に装備されているファンクションLEDの動作モードとブライト(明暗)を調整する機能です。

- 1) マルチセクターで[SYSTEM]を選択し、エンター操作で決定します。
- 2) マルチセクターで[LED]を選択してエンター操作で決定します。
- 3) ファンクションLEDの動作モード、ブライト(明暗)を設定します。

- 設定項目 MODE(動作モード)
BRIGHT(LEDの明暗)
- 設定範囲 MODE : ALWAYS/WAVE/OFF
BRIGHT : 0~5
※BRITEはALWAYSの設定時のみ
- 初期値 MODE : WAVE
BRIGHT : 5

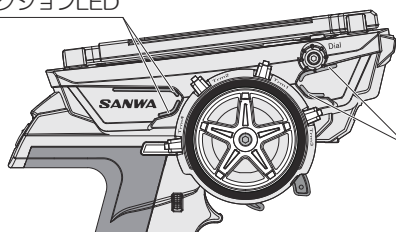


ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



ファンクションLED

ファンクションLED

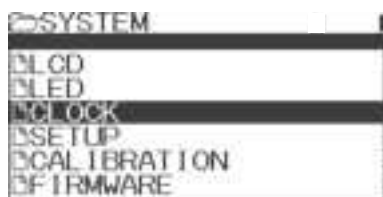


ファンクションLED

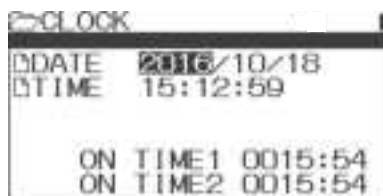
クロック[CLOCK]

- トップ画面でのカレンダーや時計表示と使用時間を管理するメニューです。
- 電池の交換時期や充電の目安となるリセット可能な[ON TIME1]と本体のオーバーホールなどの目安になる[ON TIME2]があります。

- 1) マルチセクターで[SYSTEM]を選択し、エンター操作で確定します。
- 2) マルチセクターで[CLOCK]を選択し、エンター操作で確定します。
- 3) マルチセクターでCLOCK機能を設定します。カレンダーと時計の設定をおこないますが、ログデータの管理等にもクロックの設定が必要です。必ず設定をおこなってください。



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



セットアップ[SETUP]

- セットアップで画面表示の言語の選択、テレメトリーデータの温度表示の単位、電源スイッチをONしたときのオープニングロゴの表示設定をおこないます。

- 1) マルチセクターで[SYSTEM]を選択し、エンター操作で決定します。
- 2) マルチセクターで[SETUP]を選択して、エンター操作で決定します。
- 3) マルチセクターで設定する項目を選択して、調整します。

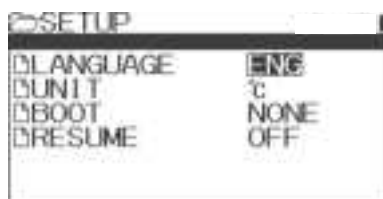
○ 設定項目 LANGUAGE (表示言語) : ENG/JPN
 UNIT (テレメトリーデータの温度単位) : °C/°F
 BOOT (電源ON時のオープニング ロゴ) : DEMO/NONE
 RESUME (レジューム) : OFF/ON

○ 初期設定 LANGUAGE : ENG
 UNIT : °C
 BOOT : DEMO
 RESUME : OFF

※レジュームをONに設定すると、電源OFFにした際のメニューを記憶します。



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



各機能の使用法

システム メニュー

システム/SYSTEM

キャリブレーション[CALIBRATION]

●使用時間による内部機構部品の消耗により、ニュートラル位置や動作角度がずれる場合があります。
そのような場合にキャリブレーションをおこなうことでステアリングとスロットルのニュートラル位置および動作角度の補正をかけることができます。

※ステアリングホイールの舵角調整機能を使用した場合には、必ずステアリング キャリブレーションをおこなってください。

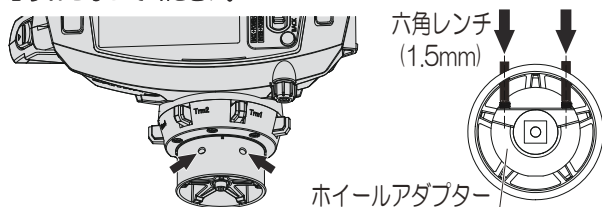
※キャリブレーションをおこなった場合は、すべてのモデルメモリーのニュートラル位置、EPAの設定を確認してください。

- 1) マルチセクターで[SYSTEM]を選択し、エンター操作で決定します。
- 2) マルチセクターで[CALIBRATION]を選択してエンター操作で決定します。
- 3) マルチセクターでキャリブレーションするチャンネルを選択してエンターで決定します。
- 4) [STEERING]を選択した場合、ステアリング ホイルがニュートラルの状態ではエンター操作してからステアリング ホイルを左側、右側いっぱいに操作します。
- 5) 範囲内に入ると[OK]と表示されますので、画面の表示にしたがって操作してください。
- 6) キャリブレーションが完了すると[Executed]と表示されます。
- 7) スロットル側もキャリブレーションが必要な場合はステアリングを参考に設定してください。

注) 必要な場合以外にキャリブレーションの設定はおこなわないでください。正しく設定できないと正常に動作しない場合があります。

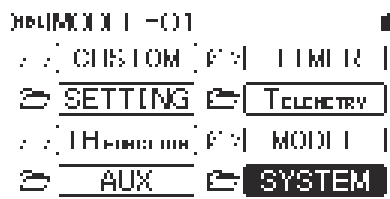
●ステアリングホイール舵角調整について
ステアリングホイールからワイドステアリングパッドをはずしてください。ステアリングホイールの穴(2箇所)に同梱されている六角穴付ホーローセットビスを六角レンチドライバー(1.5mm)でねじ込み、角度調整をおこないます。(※左右均等に締めこんでください。)

※ステアリングホイール舵角調整をおこなった場合はキャリブレーションを必ずおこなってください。



⚠ 補足

- キャリブレーションをおこなっても正常な動作に戻らないときは、再度キャリブレーションをおこなうか、SETTINGの設定を[USER]から工場出荷時の[FACTORY]に戻してください。
それでも解決しない場合は三和サービスへお問い合わせください。
- ステアリングホイールの舵角を狭くしすぎるとキャリブレーションをおこなっても正常に動作しない可能性がありますので、六角穴付ホーローセットビスを締め込みすぎないように注意してください。
- ステアリングホイールの舵角を初期状態に戻すには、六角穴付ホーローセットビスをホイールアダプターの穴からビス先端が出ない状態にしてください。
初期状態に戻したときもキャリブレーションをおこなってください。



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



ENTER (エンター) ↓



YES選択 ↓ OKならYESを選択



キャリブレーション完了

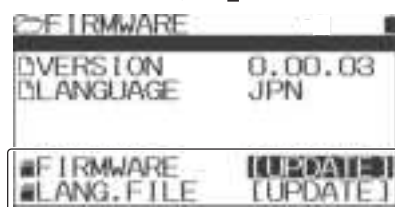
ファームウェア[FIRMWARE]

- 本体に実装されているファームウェアのバージョン確認と言語ファイルの確認、アップデートがおこなえます。

- 1) マルチセクターで[SYSTEM]を選択し、エンター操作で決定します。
- 2) マルチセクターで[FIRMWARE]を選択してエンター操作で決定します。
- 3) ファームウェアや言語ファイルのアップデートをおこなう場合はマイクロSDカードにデータファイルをダウンロードして展開してください。



ENTER (エンター) ↓ ↑ BACK (バック)



マイクロSDカードを装着しないと表示されません。

キーアサイン機能一覧

画面表示	機 能 名 称	トリム	SW1	SW2
OFF	——(機能割付け無し)	○	○	○
ASIST-ST	ステアリングドライブ アシスト	—	○	○
TRIM-ST	ステアリング トリム	○	—	—
TRIM-TH	スロットル トリム	○	—	—
TRIM-A1	AUX1 トリム	○	—	—
TRIM-A2	AUX2 トリム	○	—	—
D/R-ST	ステアリング デュアルレート	○	○	○
D/R-TH	スロットル デュアルレート	○	○	○
D/R-BR	ブレーキ デュアルレート	○	○	○
CUR-ST	ステアリング カーブ	—	○	○
CUR-TH	スロットル カーブ	—	○	○
CU-R-ST	ステアリング カーブ レート	○	—	—
CU-R-TH	スロットル カーブ レート	○	—	—
CU-R-BR	ブレーキ カーブ レート	○	—	—
SPD-ST	ステアリング スピード	—	○	○
SPD-TH	スロットル スピード	—	○	○
SP-ST-F	ステアリング スピード フォワード	○	—	—
SP-ST-R	ステアリング スピード リターン	○	—	—
SP-TH-F	スロットル スピード フォワード	○	—	—
SP-TH-R	スロットル スピード リターン	○	—	—
ALB	アンチ ロック ブレーキ	—	○	○
ALB-PO	アンチ ロック ブレーキ ポイント	○	—	—
ALB-ST	アンチ ロック ブレーキ ストローク	○	—	—
ALB-LG	アンチ ロック ブレーキ ラグ	○	—	—
ALB-CY	アンチ ロック ブレーキ サイクル	○	—	—
OFFSET	オフセット	○	○	○
AUX1	AUX1	○	○	○
AUX1[CD1]	AUX1[コード1]	○	○	○
AUX1[CD2]	AUX1[コード2]	○	○	○
AUX1[CD3]	AUX1[コード3]	○	○	○
AUX1[CD4]	AUX1[コード4]	○	○	○
AUX1[CD5]	AUX1[コード5]	○	○	○
AUX1[CD6]	AUX1[コード6]	○	○	○
AUX1[CD7]	AUX1[コード7]	○	○	○
AUX1[CD8]	AUX1[コード8]	○	○	○
AUX1[CD9]	AUX1[コード9]	○	○	○
AUX1[CD10]	AUX1[コード10]	○	○	○
AUX2	AUX2	○	○	○
AUX2[CD1]	AUX2[コード1]	○	○	○
AUX2[CD2]	AUX2[コード2]	○	○	○
AUX2[CD3]	AUX2[コード3]	○	○	○
AUX2[CD4]	AUX2[コード4]	○	○	○
AUX2[CD5]	AUX2[コード5]	○	○	○
AUX2[CD6]	AUX2[コード6]	○	○	○
AUX2[CD7]	AUX2[コード7]	○	○	○
AUX2[CD8]	AUX2[コード8]	○	○	○
AUX2[CD9]	AUX2[コード9]	○	○	○
AUX2[CD10]	AUX2[コード10]	○	○	○
TIMER	タイマー	—	○	—
TE-CLR	テレメトリー MAX クリア	—	○	○

設定可能…「○」 設定不可…「—」

センサーの取り付けについて

センサーの取り付け、対応受信機について (RX-461/RX-462)

●回転センサーを取り付ける際は、回転数を計測するポイント(例：ピニオンギアやスパーギア等)に同梱の反射ラベルを貼り、回転センサーの赤外線センサーが検知できるようにセンサー取り付けステーをポリカーボネート板やアルミアングル材などから切り出して回転センサーを固定してください。回転センサーが正常に検知しているときに受信機のLEDが緑色に点灯/消灯します。

※赤外線センサーと反射ラベル(検知部)との推奨距離は約1mmです。

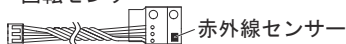
●同梱されている回転センサー用反射ラベルの使用方法に関して、回転数を計測するポイントに白または黒の反射ラベルを、回転センサーが検知できるように(2mm角程度)にカットして貼り付けてください。反射ラベルの色によってセンサー検知時に受信機LEDの反応が変わります。赤外線センサーの前方を反射ラベルが通過した時に、白い反射ラベルの場合は緑色LEDが点灯し、黒い反射ラベルの場合は緑色LEDが消灯します。

※回転センサーの動作確認をおこなう場合は受信機側の電源スイッチだけをONにしてください。送信機側の電源スイッチもONになっていると受信状態をあらわす青色LEDが点灯するので、センサー検知時の緑色LEDの点灯/消灯の確認ができなくなります。

●同梱の回転センサーは赤外線方式を採用しており、太陽光の影響を受けやすい仕様になっています。正常にセンサーが検知できない場合は赤外線センサーが太陽光の影響を受けないように工夫してください。

●違う駆動レイアウトの車輛に回転センサーを取り付ける場合には、下記を参考にしてください。

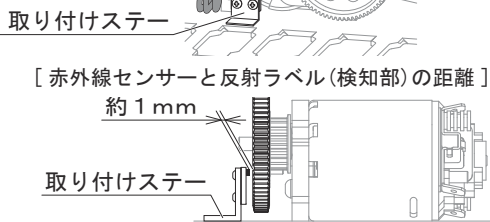
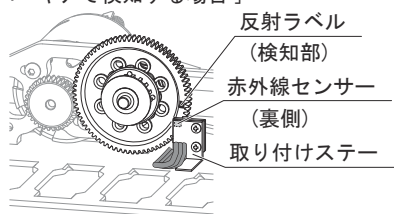
回転センサー



[ピニオンギアで検知する場合]



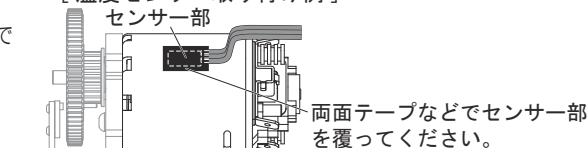
[スパーギアで検知する場合]



●温度センサーは温度を計測する対象物に温度センサーのセンサー部を密着させてください。センサー部は温度に対して非常に敏感なため、両面テープなどで外気などの影響を受けないように固定してください。

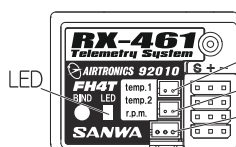


[温度センサー取り付け例]

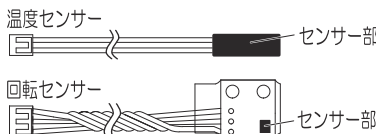


●回転センサーや温度センサーのコードやセンサー部が車体の回転部分や可動部に接触したり、巻き込まれたりしないように注意して確実に固定してください。

●回転センサーや温度センサー設置時に怪我をしないように注意してください。



temp.1 : 温度センサー1
temp.2 : 温度センサー2
r.p.m. : 回転センサー



●受信機にセンサーを接続する際に受信機上部のコネクターカバーをはずして、温度センサーと回転センサーを接続してください。

●センサーを接続しないコネクターには受信機用ダストカバーをカットして使用してください。

●温度を計測する対象物に温度センサーのセンサー部を密着させてください。センサー部は温度に対して非常に敏感なため、外気などの影響を極力受けないように固定してください。

●回転センサーを取り付ける際は、回転数を計測するポイントに反射ラベルを貼りつけて、回転センサーのセンサー部が検知できるように回転センサーを固定してください。回転センサーが正常に検知しているときに受信機のLEDが緑色に点灯/消灯します。

※回転センサーと検知部との距離は1mm程度が推奨です。

●回転数を計測するポイントが黒い場合は白い反射ラベルを、計測するポイントが白い場合は黒の反射ラベルを回転センサーが検知できるようにカットして貼り付けてください。使用する反射ラベルによってセンサー検知時に受信機LEDが緑色に点灯/消灯します。

●回転センサーは赤外線方式を採用しており太陽光の影響を受けやすい仕様になっています。検知できない場合は影響を受けないように工夫してください。

●温度センサーや回転センサーのコードやセンサー部が車体の回転部分や可動部に接触したり、巻き込まれたりしないように注意して固定してください。

●温度センサーや回転センサー設置時に怪我をしないように注意してください。



注意

●走行中の振動でコネクターが抜けると暴走の危険があります。受信機、サーボ、スイッチ等のコネクターは確実に接続してください。

●受信機は振動、衝撃、水に弱いので防振/防水対策を確実にしておこなってください。対策をおこなないと暴走の危険があります。

●受信機の取り付けはカーボンシャシー、金属シャシーから離れて取り付けてください。

●RCカーに搭載している金属パーツ同士が接触するとノイズが発生し受信性能に悪影響をおよぼし、暴走の危険があります。

●電動RCカー用のブラシモーターには必ずノイズキラーコンデンサーを取り付けてください。

ノイズキラーコンデンサーを取り付けていないと、ノイズが発生し暴走の危険があります。

●送信機、受信機、サーボ、FETスピードコントローラー、送信機バッテリー等のプロポパーツはSANWA純正品をご使用ください。

※SANWA純正品以外の組み合わせや当社以外で改造、調整、部品交換などがおこなわれた場合により発生した損害などにつきましては、当社では責任を負いません。

索引

- あ アンチ ロック ブレーキ[ALB] P.31
インターバル タイマー[INT TIMER] P.39
エル イー ディー[LED] P.57
エル シー ディー[LCD] P.57
エー ユー エックス[AUX] P.33～36
エー ユー エックス ミキシング[AUX-MIX] P.35
エンド ポイント アジャスト[EPA] P.27、28
オフセット[OFFSET] P.32
- か カーブ[CURVE] P.21～24
キーアサイン スイッチ[KEY ASSIGN SW] P.51
キーアサイン トリム[KEY ASSIGN TRIM] P.52
キャリブレーション[CALIBRATION] P.59
クイック セットアップ[QUICK SETUP] P.17、18
グラフ セットアップ[GRAPH SETTING] P.44
コード エー ユー エックス[CODE AUX] P.36
- さ サブ トリム[SUB TRIM] P.26
スピード[SPEED] P.20
ステップ エー ユー エックス[STEP AUX] P.33
スロットル タイプ [TH TYPE] P.32
システム[SYSTEM] P.49～60
セッティング[SETTING] P.19～32
- た タイマー[TIMER] P.37～39
ダウン タイマー[DOWN TIMER] P.39
テレメトリー スイッチ[TELEMETRY SWITCH] P.44
テレメトリー セッティング[TELEMETRY SETTING] P.43
デュアル レート[D/R] P.19
トリム[TRIM] P.29、30
- は バインド[BIND] P.49、50
バッテリー[BATTERY] P.56
フェール セーフ[F/S] P.25
4ホイール ステアリング[4WS] P.34
ブザー[BUZZER] P.56
ベース[BASE] P.25～28
ポイント エー ユー エックス[POINT AUX] P.33
- ま モデル[MODEL] P.45～48
モデル クリア[MODEL CLEAR] P.48
モデル コピー[MODEL COPY] P.47
モデル セレクト[MODEL SELECT] P.45
モデル ネーム[MODEL NAME] P.46
モーター オン アクスル [MOA] P.34
- ら ラップ タイマー[LAP TIMER] P.38
リバース[REV] P.26

こんなときは・・・

現 象	原 因	処 理
電源が入らない。	乾電池またはバッテリーが消耗している。 乾電池の入れ間違い。	新しい乾電池または充電されたバッテリーと交換してください。 極性表示とおりに入れなおす。
ときどき電源が切れる。	コネクター等の接触不良	サンワサービスへ
距離が届かない。	乾電池またはバッテリーが消耗している。	新しい乾電池または充電されたバッテリーと交換してください。 直らない場合はサンワサービスへ
アラームが鳴り止まない。	送信機のバッテリー電圧が低下している。	新しい乾電池または充電されたバッテリーと交換してください。
キーを押してもクリック音が鳴らない。	BUZZER機能のVOLUMEがOFF (0)になっている。	BUZZER機能を確認してください。(P.56)
サーボのスピードが遅い。	SPEED(スピード)の機能で設定がマイナスになっている。	SPEED(スピード)の機能を確認してください。(P.20)
	受信機バッテリーの電圧が低下している。	新しい乾電池または充電されたバッテリーと交換してください。
	車体側のリンクージが重い。	車体側のリンクージが軽く動くか確認してください。
左右の舵角を合わせても、左右の舵角が違う。	トリムニュートラルがズれている。	トリムを合わせ、EPAを再設定してください。(P.29, 30)
操作したとき両端でサーボが動かない。	D/R, EPAの舵角設定が大きすぎる。	どちらかの値を100%以下に設定します。(P.19, 27, 28)
トリムを操作してもサーボが動かない。	トリム動作範囲の片側いっぱいになっている。	サーボホーン、トリムセンターを再設定します。(P.29, 30)

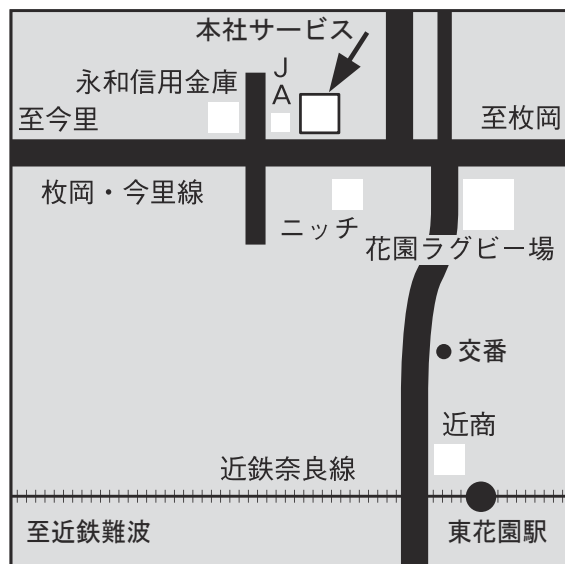
サンワ サービスについて

調子が悪いときはまずチェックを。この取扱説明書をもう一度ご覧になってお調べください。
それでも異常のあるときはトラブルの状況を詳しくご記入の上、本社サービスまで修理依頼してください。

オーバーホールや点検時は点検内容を詳しくご記入ください。

また、ご質問、お問い合わせ等がありましたら、本社サービス/東京営業所にて受付けております。

電話でのお問い合わせは土曜、日曜、祝日を除くAM9：30～12：00、PM1：00～5：00です。



〈本社サービス〉

東大阪市吉田本町1丁目2-50

〒578-0982 ☎072(962)2180

修理依頼カード

このカードは故障状態を詳しくご記入のうえ必ず製品といっしょに
お送りください。

〒 -

ご住所

フリガナ
お名前

電話 市外()
()-

修理依頼用件

ご意見・ご要望

1回目 年 月 日

☐点検、オーバーホール。

☐全く動かない。

☐ノーコンになる。

☐水が入った。

☐その他

修理依頼用件

ご意見・ご要望

2回目 年 月 日

☐点検、オーバーホール。

☐全く動かない。

☐ノーコンになる。

☐水が入った。

☐その他

キリトリ線



SANWA プロポ保証書

製品型名

MT44

製造番号

ご住所

お名前

保証期間

お買上げ日
有効期限

年 月 日) 180日間
年 月 日

販売店名・印

当社製品を上記記載通り保証いたします。


三和電子機器株式会社

「???」と感じたら……

動きがおかしかったり、「???」と感じたときは次のことをもう一度確認してください。

- 送信機、受信機の乾電池は正しく入っていますか？ 極性（＋、－）は間違えていませんか？
- 送信機、受信機の電源スイッチは“ON”になっていますか？
- 送信機、受信機のBIND(バインド)設定は正しくできていますか？
- コネクターがはずれていませんか？
- 動作部分のリンケージ(セットアップ)が固すぎませんか？

以上のことを確かめても正常に動作しないときは、サンワ サービスに保証書と修理依頼カードを添付してお送りください。

 プロポは水が一番きらいです。プロポに水が入りそうな場合は、防水対策をおこなってください。ビニール袋等に入れて袋の口をゴムやテープでふさいでください。受信機やサーボに水が入ると、内部の電子部品が壊れて動作しなくなります。



キリトリ線

- 1.本保証書は表面記入の製品型名、製造番号のみについて有効です。
- 2.正常な使用状態において、製造上の責任による故障はお買い上げの日から6ヶ月(180日)以内にて無償修理いたします。
但し、車体、エンジン等その他の保障についてはご容赦願います。
- 3.保障期間内でも次の場合は有償修理となります。
 - 電氣的、機械的に変更または手を加えられた場合。
 - 弊社サービス以外で修理された場合。
 - 使用上の操作の過失、または事故により発生した故障と認められた場合。
 - 本保証書を紛失された場合、または修理の際に添付されない場合。
 - お買上げ年月日、お客様名、販売店の記入のない場合。
 - 記入事項を訂正された場合。







SANWA

三和電子機器株式会社

本社／東大阪市吉田本町1-2-50 〒578-0982 ☎072 (964) 2531
東京営業所／東京都台東区浅草橋3-18-1 (KKKビル) 〒111-0053 ☎03 (3862) 8857

- 予告なく外観または仕様の一部を変更することがあります。
- 2016年12月 第2版